



福山市 多文化共生 推進プラン

広島県福山市

はじめに

本市の外国人住民は、新型コロナウイルス感染症による入国制限の影響から一時は減少したものの、年々増加し、その国籍や在留資格の構成も多様化しています。今後も増加が見込まれ、地域の経済や社会を支える担い手としてさらなる活躍が期待されています。

こうした状況を踏まえ、外国人を含む全ての住民が互いの多様性を認め合い、社会の一員として地域で共に暮らしていけるよう『福山市多文化共生推進プラン』を策定しました。

また、生活圏を同じくする備後圏域7市2町においても『びんご圏域多文化共生推進ビジョン』を策定し、共通の方向性を持って多文化共生に取り組むこととしました。

今後、本プランに基づき、基本理念に掲げる「互いを認め合い 多様性を活力に みんなで創る 多文化共生のまち」をめざし、市民の皆さまとともに取り組んでまいります。

結びに、本プランの策定に当たり、福山市多文化共生推進プラン検討懇話会の皆さま、貴重な御意見や御提言をお寄せくださった皆さま、そして御協力をいただいた関係者の皆さまに心から感謝を申し上げます。

2025年(令和7年)3月
福山市長 枝広 直幹





目次

第1章 プラン策定にあたって

1	プラン策定の背景と趣旨	3
2	プランの位置付け等	4
3	プランの期間	6
4	用語の定義	7

第2章 在留外国人の現状

1	国・県の動向	10
2	備後圏域の外国人の現状	12
3	本市の外国人の現状	17

第3章 基本的な考え方と施策体系

1	基本理念	24
2	基本方針と施策体系	25
3	基本方針と施策の方向性	26

第4章 目標と具体的施策

1	基本方針1	33
2	基本方針2	38
3	基本方針3	46

第5章 プランの推進

1	推進体制	52
2	各主体の役割	52
3	プランの進行管理	55

資料編 各種調査からみる状況



第1章 プラン策定にあたって

1 プラン策定の背景と趣旨

近年、外国人住民の増加及び多国籍化が進んでいます。国においては、2020年（令和2年）に「地域における多文化共生推進プラン」を改訂し、国籍や民族等の異なる人々が、互いの文化を認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていく多文化共生の取組を推進しています。

本市においても、外国人人口は年々増加し、近年ではベトナムをはじめとした東南アジア諸国出身者の増加等による多国籍化、在留資格の構成の変化など環境は大きく変化しています。

これまで、2009年（平成21年）4月に策定した「福山市国際化推進プラン」等に基づき、多文化共生及び国際交流の推進に取り組んできました。また、2021年（令和3年）9月には、差別のない、誰もが真に大切にされる人権尊重のまちづくりを推進するため、「福山市人権尊重のまちづくり条例」を制定しました。さらに、2023年（令和5年）5月には、SDGs（持続可能な開発目標 Sustainable Development Goals）の達成に向けた優れた取組を実施する自治体として「SDGs未来都市」に選定されました。

今後は、誰ひとり取り残さない持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現に向け、多文化共生のまちづくりが、より一層求められています。

また、福山市を連携中枢都市とした、三原市、尾道市、府中市、竹原市、世羅町、神石高原町、岡山県笠岡市及び井原市で構成された備後圏域においても、人口減少は進行しており、多様な人材の定着に向けた取組が必要です。備後圏域が一体となった多文化共生のまちづくりの推進が求められています。

こうした状況を踏まえ、本市及び備後圏域における外国人住民を取り巻く現状や課題を明らかにし、本市のこれまでの取組を継承・発展させ、多文化共生に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため「福山市多文化共生推進プラン」を策定します。

2 プランの位置付け等

(1) 福山市総合計画等における位置付け

本プランは、「福山みらい創造ビジョン（第五次福山市総合計画第2期基本計画）」に基づき、多文化共生の推進に関する具体的な方向性を示し、施策を実施する上での指針として位置付けます。

また、福山市を連携中枢都市とし、三原市、尾道市、府中市、竹原市、世羅町、神石高原町、岡山県笠岡市及び井原市で構成された備後圏域が、各地域の独自性や個性を生かす中で、一体的に発展していくための新たな成長戦略として策定された「びんご圏域ビジョン」と整合を図るものとしします。

福山みらい創造ビジョン



びんご圏域ビジョン



びんご圏域
多文化共生推進ビジョン



(2) びんご圏域多文化共生推進ビジョンとの関係

備後圏域7市2町が、共通の理念を持ち多文化共生の取組を推進していくため、「びんご圏域多文化共生推進ビジョン」（以下「推進ビジョン」という。）を策定し、多文化共生社会の実現に向け取り組みます。本プランは、推進ビジョンにおいて定める、基本理念、基本方針、施策体系及び施策の方向性に、本市における具体的施策を加えたものとしします。

（３）「日本語教育の推進に関する法律」における位置付け

「日本語教育の推進に関する法律」において、地方公共団体は、地域の実情に応じ、日本語教育の推進に関する施策を総合的かつ効果的に推進するための基本的な方針を定めるよう努めるものと規定されています。本プランを、本市の「日本語教育の推進に関する基本的な方針」として位置付けます。

（４）SDGs との関係

本プランは、2023年（令和5年）8月に策定された「福山市SDGs未来都市計画」を踏まえ、SDGs（持続可能な開発目標 Sustainable Development Goals）の目標1「貧困をなくそう」、目標3「すべての人に健康と福祉を」、目標4「質の高い教育をみんなに」、目標8「働きがいも経済成長も」、目標10「人や国の不平等をなくそう」、目標11「住み続けられるまちづくりを」、目標16「平和と公正をすべての人に」、目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」の目標に関連付けられ、この8つの目標達成に向けて取組を進めていきます。

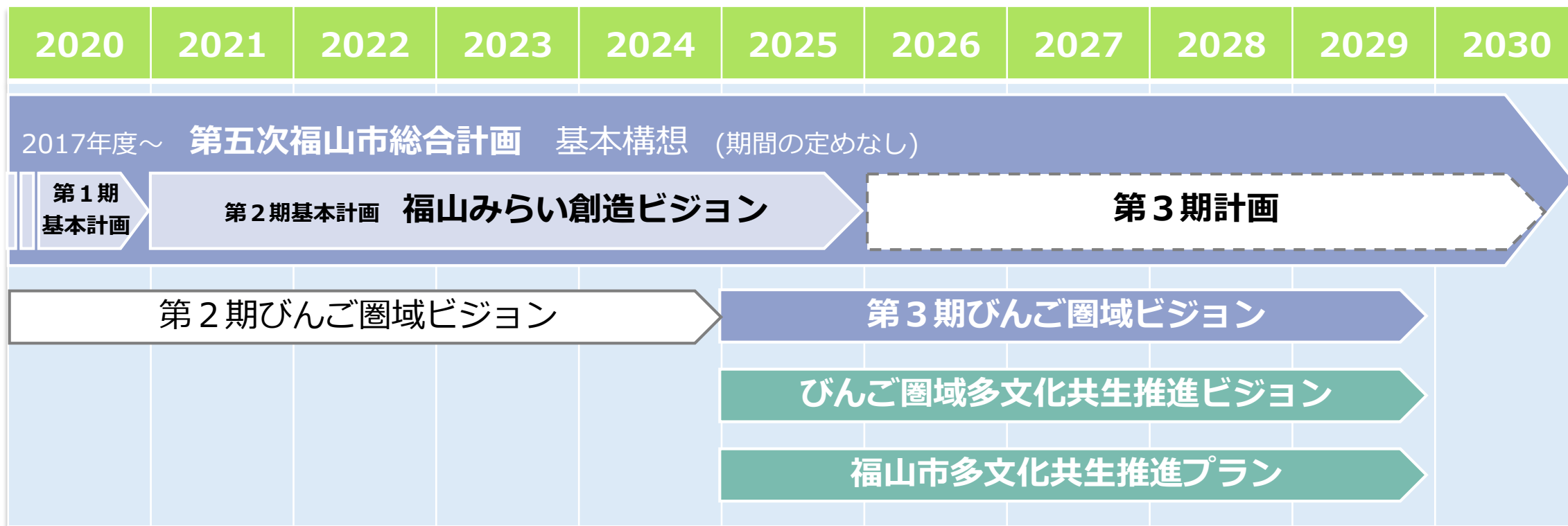


SDGs について
(外務省ホームページ)



3 プランの期間

2025年度（令和7年度）から2029年度（令和11年度）までの5年間を対象期間とします。同期間で、備後圏域市町においても、びんご圏域多文化共生推進ビジョンに基づき、連携しながら取組を進めていきます。



※福山みらい創造ビジョンの計画期間：2021年度（令和3年度）から2025年度（令和7年度）

※びんご圏域ビジョンの計画期間：第2期：2020年度（令和2年度）から2024年度（令和6年度）

第3期：2025年度（令和7年度）から2029年度（令和11年度）

4 用語の定義

「多文化共生」とは

「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」

（総務省：「多文化共生の推進に関する研究会報告書」より）

「外国人住民」とは

「住民」とは、当該市町の区域内に住所を有する人のことをいいますが、備後圏域の市町以外に住所を持ち、備後圏域市町に通勤や通学をしている人もいます。

また、「出入国管理及び難民認定法」では「外国人」を、日本の国籍を有しない者と定めていますが、市内や備後圏域市町には日本国籍を有しながらも様々な文化的背景を持つ人や、外国籍を持ちながらも生活者として長く住んでいる人もいます。

このプランでは、日本国籍の有無にかかわらず外国にルーツを持ち、本市や備後圏域に関わりのある人を「外国人住民」という言葉で表現します。

本市は、これまでの歴史や産業発展のなかで、多くの外国人住民を受け入れてきました。また、福山の戦後復興から半世紀の歩みのなかで誕生し、根付いた言葉「ローズマインド」は、「思いやり 優しさ 助け合いの心」を表し、平和、ばら栽培に必要な愛情、人への優しさなど様々な想いが込められており、多文化共生の考え方とも共通します。

ふくやまのこころ ローズマインド



歴史

古くは、万葉集にも詠まれ、瀬戸内を代表する景勝地となっている「鞆の浦」は、江戸時代、朝鮮通信使が寄港した港町で、当時の史跡や町並みを残し、多くの外国人が訪れています。

戦後復興の象徴である「ばら」のまちづくりにより、市制施行100周年にあたる2016年（平成28年）には、100万本のばらのまちを実現しました。ばらでつながる国際交流も盛んで、2025年（令和7年）には第20回世界バラ会議福山大会が開催されます。

産業

鉄鋼業を中心に多種多様な製造業が集積しています。多くの上場企業やオンリーワン・ナンバーワン企業を抱えるものづくりに強いまちとして発展してきました。

日系南米人をはじめ、ベトナム・フィリピンなどからの技能実習生等、多くの外国人住民を受け入れ、彼らと共に働きながら、産業は発展してきました。

人権

妊娠から出産期、子育て期まで切れ目のない支援を行う相談窓口「あのね」の整備等の福山ネウボラの取組や、市民にとって一番身近な行政の相談窓口にもなる交流館を、市内全学区に設置するなど、外国人住民を含めた全ての地域住民の暮らしに寄り添った取組を進めています。



第2章

在留外国人の現状

1 国・県の動向

(1) 国の動向

日本で暮らす外国人の人数は、2023年（令和5年）12月末時点で341万人を超え、過去最高となり、増加しています。また、多国籍化も進んでいます。

国はこれまで、外国人を取り巻く環境の変化に対応するため、外国人の受入れ環境整備と共生社会づくりに取り組んできました。特に2018年（平成30年）以降は、深刻化する人手不足などを背景に、特定技能制度の導入や、「日本語教育の推進に関する法律」を施行するなど、多文化共生の取組を進めています。

年	国の動き
2018年（平成30年）	・「外国人の受入れ環境の整備に関する業務の基本方針について」を閣議決定。 ・新たな在留資格「特定技能」を創設。人手不足が深刻な14の産業分野において、外国人の就労が可能となる。 ・「外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策」を策定。共生社会の実現に向けた、めざすべき方向性を示す。
2019年（令和元年）	・「日本語教育の推進に関する法律」を施行。多様な文化を尊重した活力ある共生社会を実現するため、日本語教育に関する施策を推進。
2020年（令和2年）	・「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」（文化庁）を開始。「生活者としての外国人」の日本語学習機会の確保を図る。 ・「地域における多文化共生推進プラン」（総務省）を改訂。
2022年（令和4年）	・「外国人との共生社会の実現に向けたロードマップ」（外国人の受入れ・共生に関する関係閣僚会議）を策定。国のめざすべき外国人との共生社会のビジョンや取り組むべき施策等を示す。
2024年（令和6年）	・技能実習に代わる新たな制度として「育成就労」※を新設するための関連法「出入国管理及び難民認定法及び外国人の技能実習の適正な実施及び技能実習生の保護に関する法律の一部を改正する法律」が、国会で成立。

※在留資格「技能実習」を廃止し、創設される在留資格。「育成就労産業分野」（特定産業分野のうち就労を通じて技能を習得させることが相当なもの）に属する技能を要する業務に従事すること等を目的とする。

（２）広島県の動向

広島県においては、2020年（令和2年）12月に策定した「安心・誇り・挑戦ひろしまビジョン」を基本とし、将来にわたって、「広島に生まれ、育ち、住み、働いて良かった」と心から思える広島県の実現に向け、「安心」の土台と「誇り」の高まりにより、県民一人ひとりが夢や希望に「挑戦」できる社会をめざしています。

また、2021年（令和3年）に、「日本語教育の推進に関する法律」に規定する地方公共団体の責務を踏まえ、県及び市町が連携して取り組むべき方針として、「地域日本語教育の総合的な体制づくりに向けた広島県アクションプラン」[対象期間:2021年度（令和3年度）から2023年度（令和5年度）]を策定しました。地域に在住する外国人住民等が、日本語を学ぶことができ、また、社会の一員として、孤立することなく地域活動に参加できる環境を整備するため、関係機関が連携して、地域コミュニティ拠点としての地域日本語教室の拡充に取り組んできました。

そして、2024年（令和6年）には、これまでの取組を踏まえ、「地域日本語教育の総合的な体制づくりに向けた広島県アクションプラン」[対象期間:2024年度（令和6年度）から2025年度（令和7年度）]に改訂しました。

2 備後圏域の外国人の現状

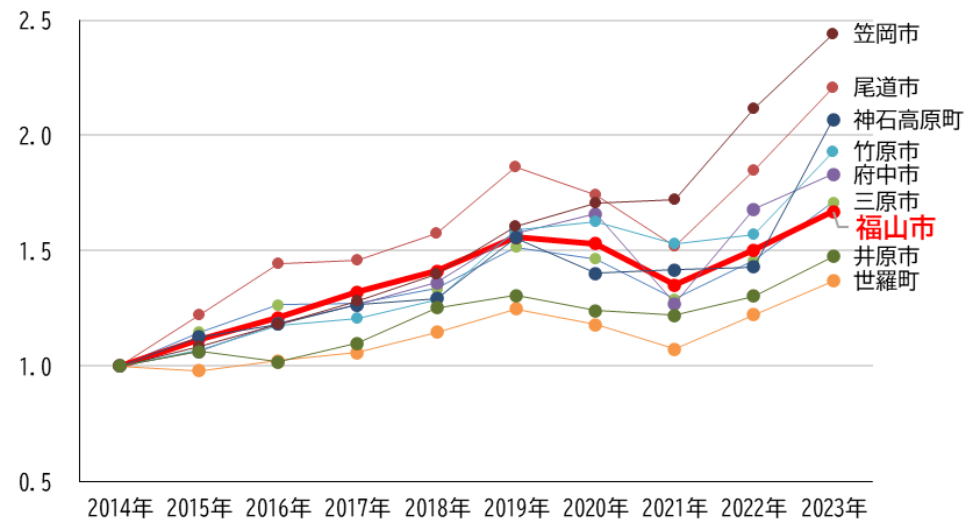
(1) 人口推移

備後圏域における外国人は増加傾向にあります。

2014年（平成26年）の外国人を1とした伸び率をみると、2023年（令和5年）で福山市は約1.6倍ですが、最も増加率が高い笠岡市は約2.4倍、次いで、尾道市が約2.2倍となり、いずれの市町も増加傾向となっています。

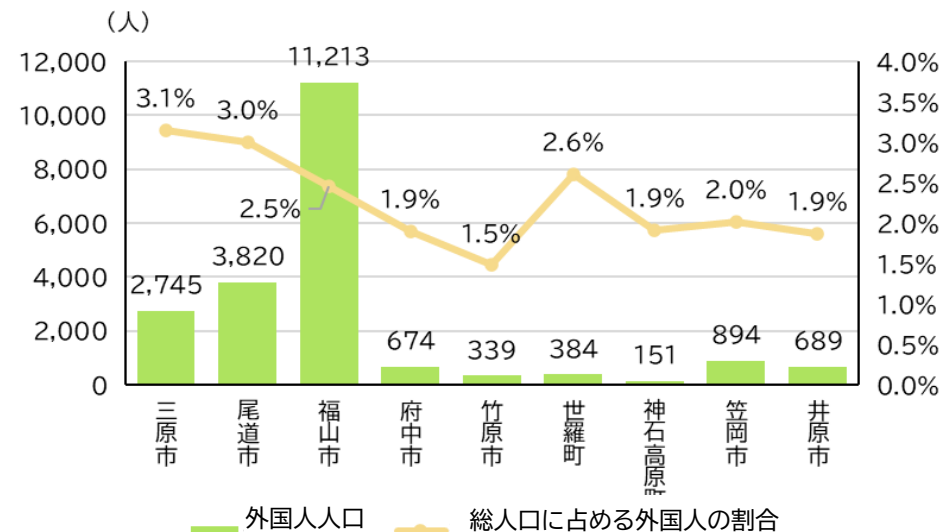
2024年（令和6年）5月末の外国人は、福山市が最も多くなっていますが、総人口に占める割合では三原市の約3.1%が最大となっています。備後圏域全体の外国人は20,909人で、全体人口の約2.5%が外国人となっています。

■外国人の増加率



資料：法務省 在留外国人統計（各年12月末）より算出

■外国人人口と総人口に占める割合



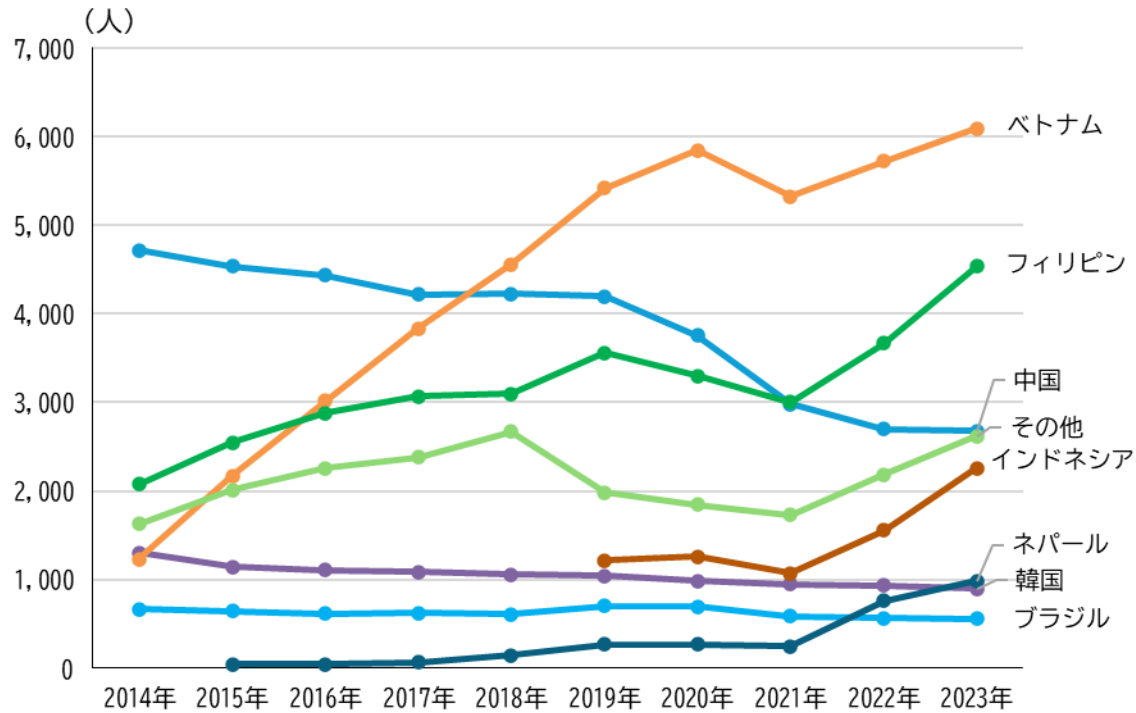
資料：備後圏域各市町（2024年5月末）

(2) 国籍・地域別の状況

備後圏域の外国人を国籍・地域別でみると、近年ではベトナム、フィリピンなどの東南アジアからの人口が急激に増加し、中国を超えて上位を占めています。また、インドネシアやネパールからの人口も増加しています。

一方で、中国や韓国、ブラジルは減少傾向にあります。

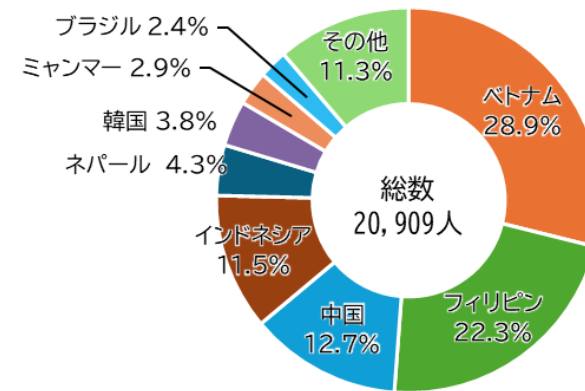
■国籍・地域別の推移



※主な国籍・地域別の人口推移を記載

資料: 法務省 在留外国人統計(各年12月末)

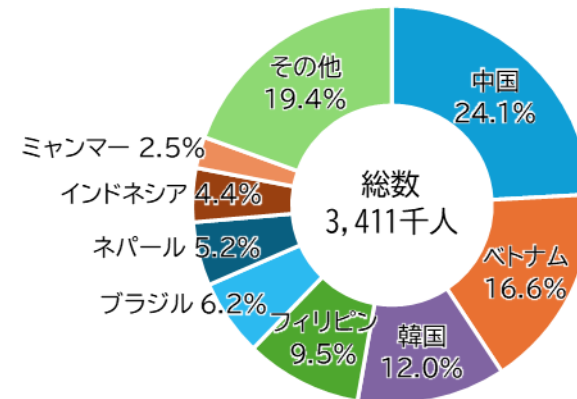
■国籍・地域別割合



国籍・地域	人数
ベトナム	6,038
フィリピン	4,667
中国	2,663
インドネシア	2,396
ネパール	889
韓国	795
ミャンマー	598
ブラジル	506
その他	2,357

資料: 備後圏域各市町(2024年5月末)

■【参考】(2023年)全国の国籍・地域別割合



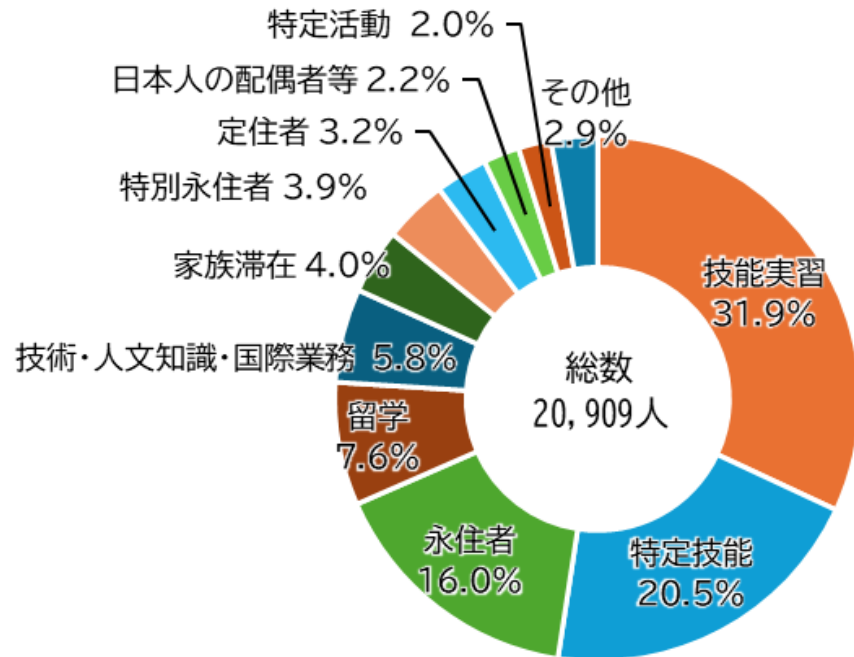
資料: 法務省 在留外国人統計(2023年12月末)

(3) 在留資格別の状況

備後圏域の外国人を在留資格別でみると、「技能実習」と「特定技能」で半数以上を占めています。次いで、「永住者」、「留学」、「技術・人文知識・国際業務」となっています。

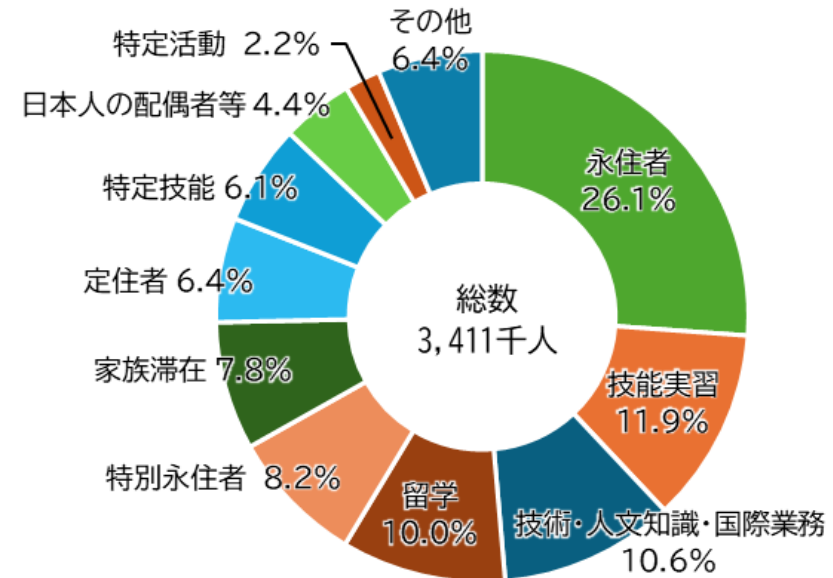
全国の在留資格別割合と比べると、「技能実習」や「特定技能」の割合が高くなっています。

■在留資格別割合



資料：備後圏域各市町(2024年5月末)

■【参考】(2023年)全国の在留資格別割合

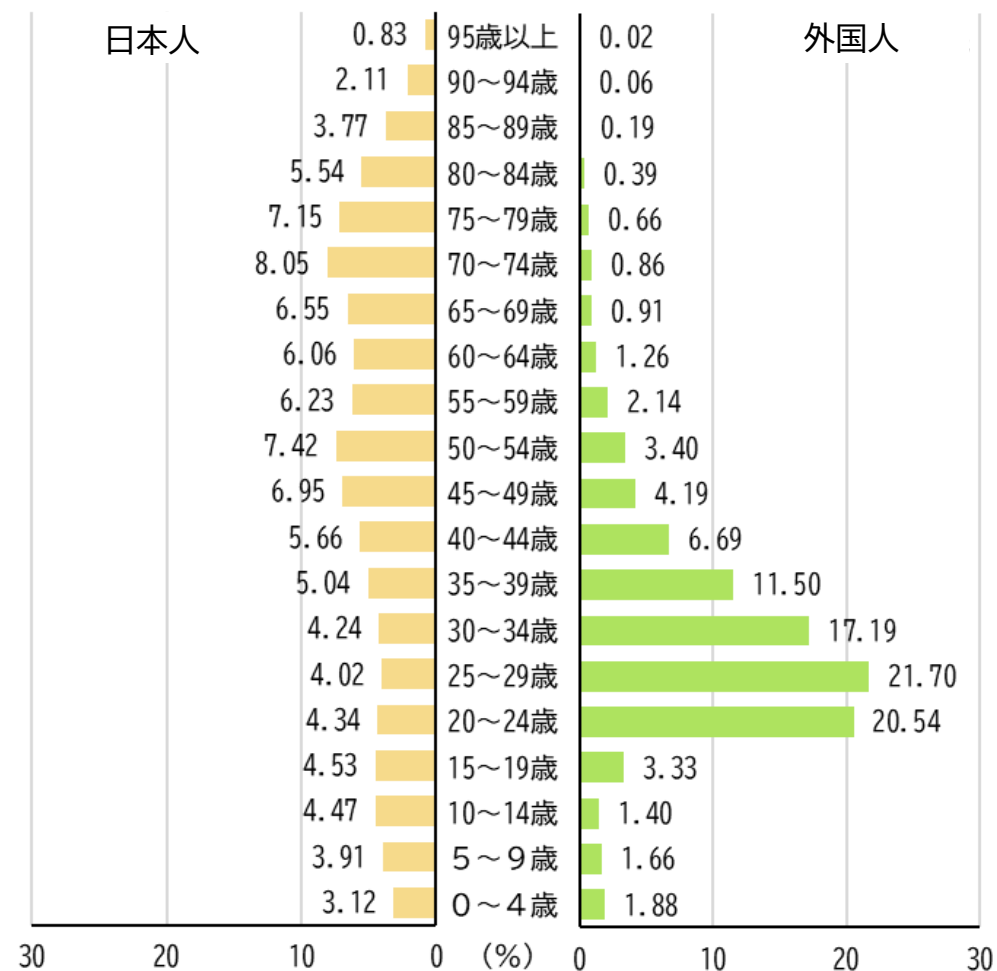


資料：法務省 在留外国人統計(2023年12月末)

(4) 年齢別構成

備後圏域の日本人と外国人のそれぞれの年齢別構成比をみると、日本人は各年齢に分散し、65歳以上が合計で約34%となっているのに対し、外国人は20歳代が約42%、次いで30歳代が約29%と高くなっており、20～30歳代で外国人のおよそ70%を占めています。

■年齢別人口構成比



資料：総務省 住民基本台帳人口(2024年1月1日)

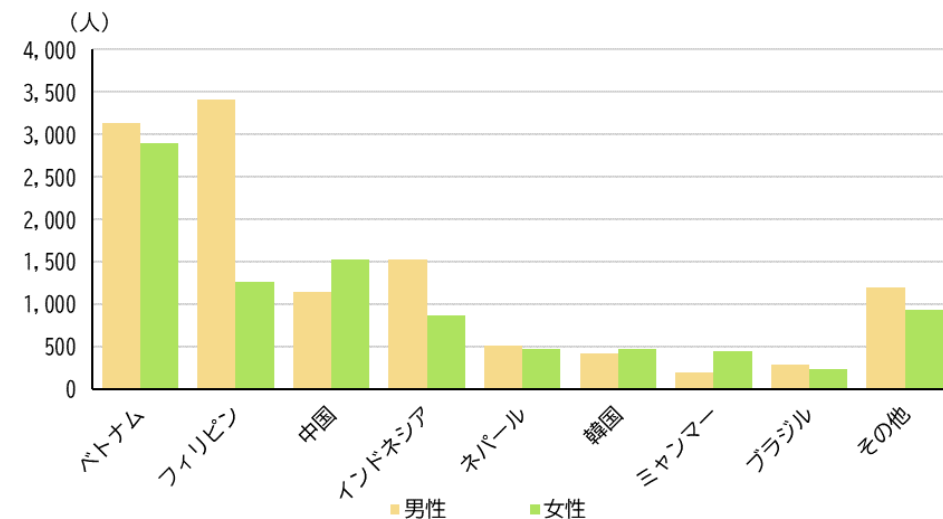
(5) 男女別構成

備後圏域の外国人を男女別で見ると、国籍別ではフィリピンやインドネシアなどで男性が多くなっています。

在留資格別では、「技能実習」や「特定技能」などで男性が多くなっており、永住者や家族滞在などでは女性が多くなっています。

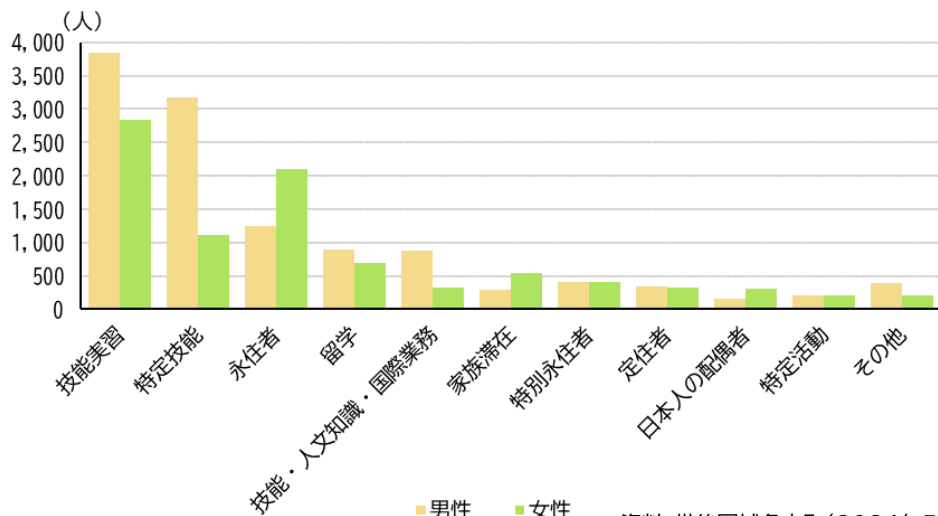
年齢別では、20～39歳で男性が多くなっており、40歳以上では女性が多くなっています。

■国籍別・男女別構成



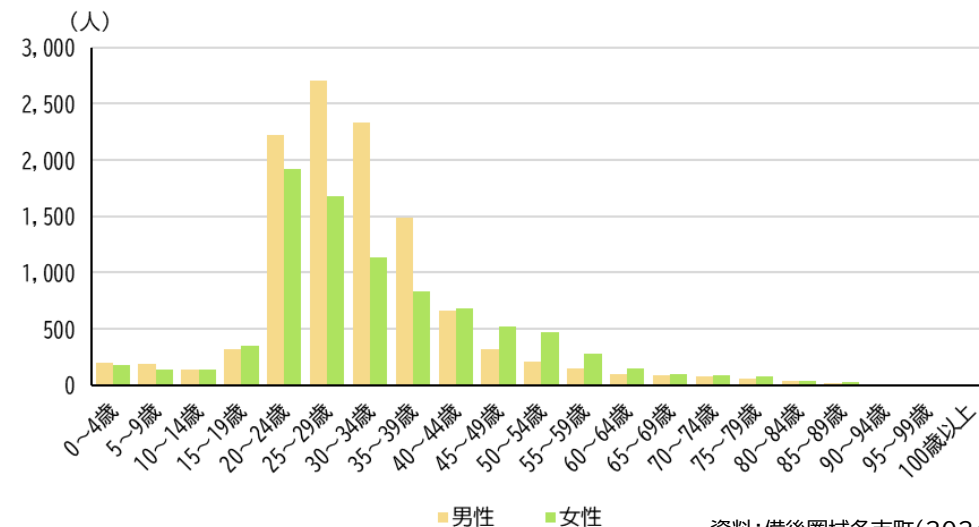
資料：備後圏域各市町（2024年5月末）

■在留資格別・男女別構成



資料：備後圏域各市町（2024年5月末）

■年齢別・男女別構成



資料：備後圏域各市町（2024年5月末）

3 本市の外国人の現状

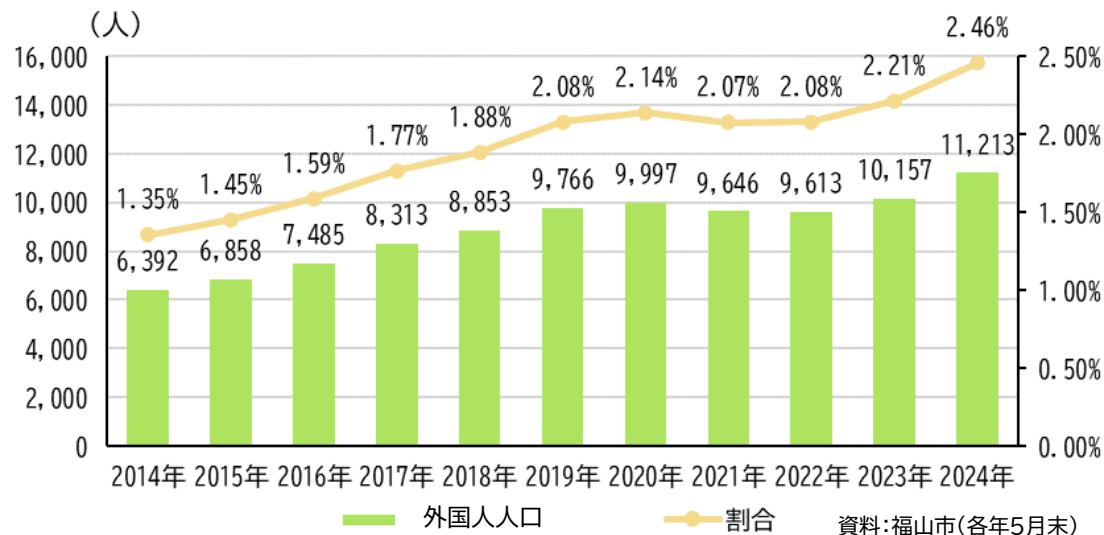
(1) 人口推移

本市の外国人は、近年、増加傾向にあります。

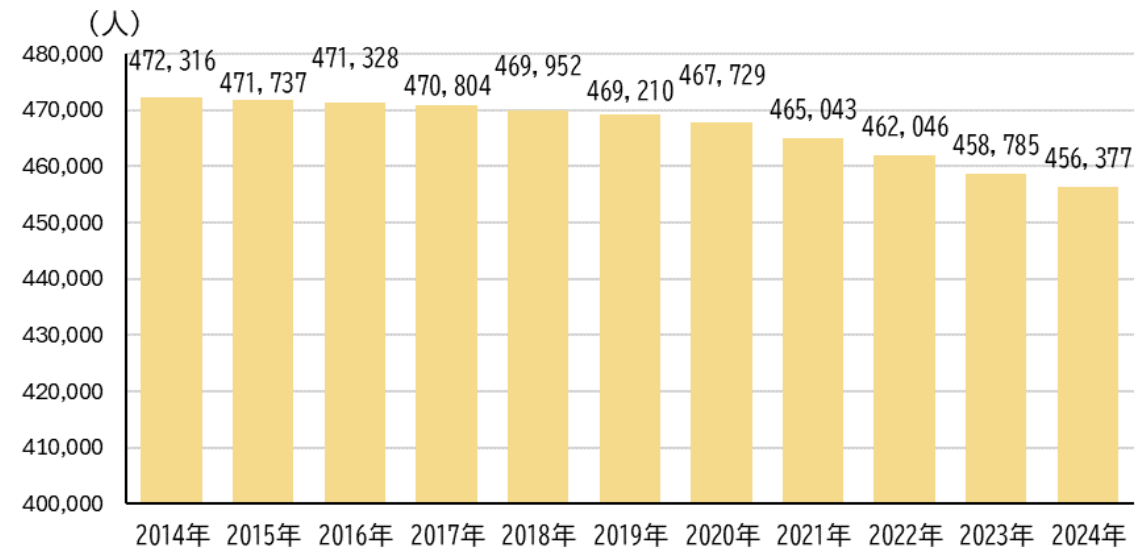
2014年（平成26年）から7年連続で増加し、2020年（令和2年）には9,997人となりました。その後、新型コロナウイルス感染症の影響等により減少したものの、2022年（令和4年）の入国制限の緩和により、2023年（令和5年）以降は増加に転じ、2024年（令和6年）5月末時点では過去最高の11,213人となりました。

また、市人口に占める外国人の割合も、2014年（平成26年）の1.35%から2024年（令和6年）には2.46%へと上昇しており、市民の約40人に1人が外国人となっています。

■外国人人口と総人口に占める割合



■【参考】総人口の推移



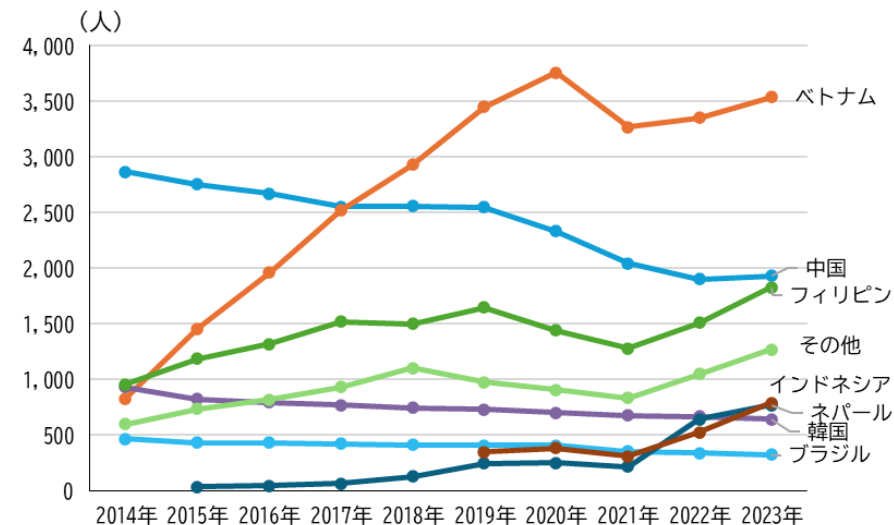
(2) 国籍・地域別の状況

本市の外国人を国籍・地域別でみると、多い順にベトナム、中国、フィリピン、インドネシア、ネパールとなっています。全国と比較すると、ベトナムやフィリピンの割合が高く、中国や韓国の割合が低いといった特徴があります。

10年前の2014年（平成26年）は、中国の割合が突出して高い状況にありましたが、現在は、ベトナムやフィリピン、インドネシア、ネパールなどの東南アジアが増加傾向にあります。

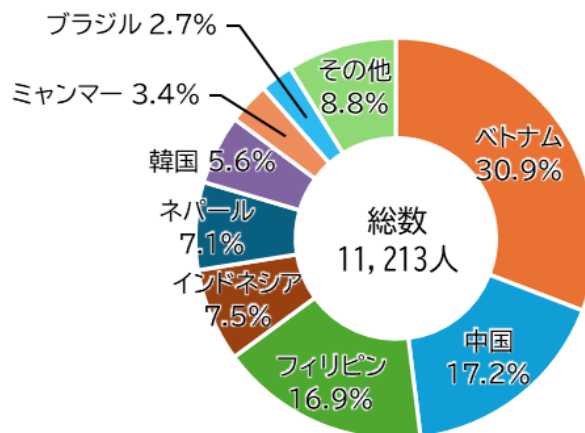
また、国籍・地域の総数は、2024年（令和6年）5月末で66の国籍・地域となっており、多国籍化が進んでいます。

■国籍・地域別の推移



資料：法務省 在留外国人統計(各年12月末)

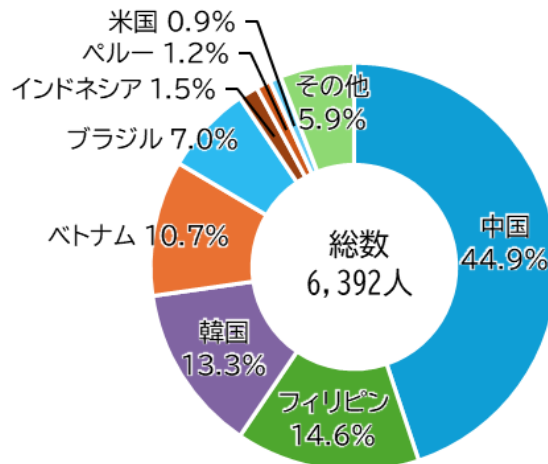
■国籍・地域別割合



国籍・地域	人数
ベトナム	3,460
中国	1,925
フィリピン	1,898
インドネシア	843
ネパール	792
韓国	628
ミャンマー	376
ブラジル	300
その他	991

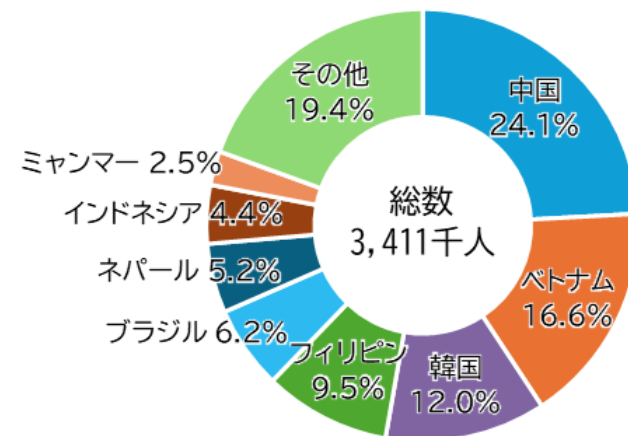
資料：福山市(2024年5月末)

■【参考】(2014年)国籍・地域別割合



資料：福山市(2014年5月末)

■【参考】(2023年)全国の国籍・地域別割合



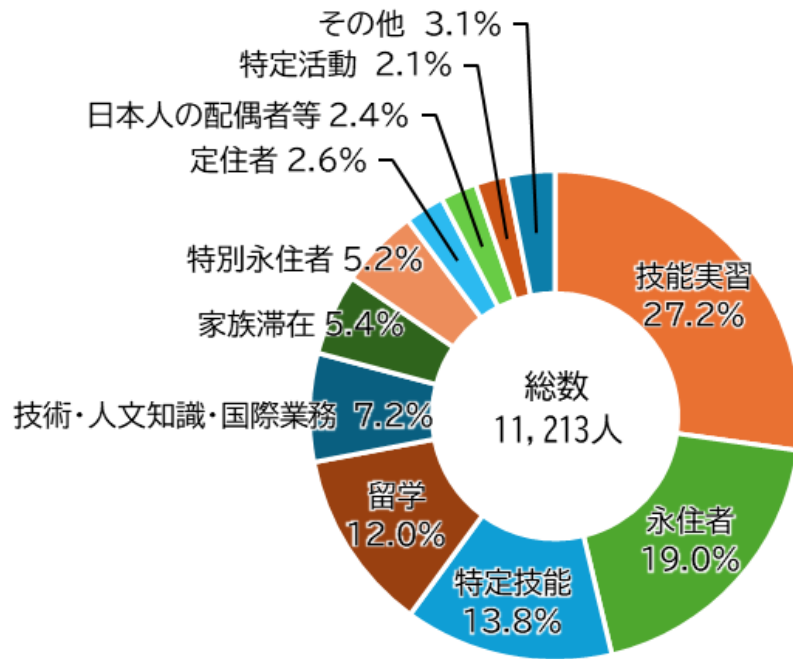
資料：法務省 在留外国人統計(2023年12月末)

(3) 在留資格別の状況

本市の外国人を在留資格別でみると、「技能実習」の割合が高く、次いで「永住者」、「特定技能」となっています。

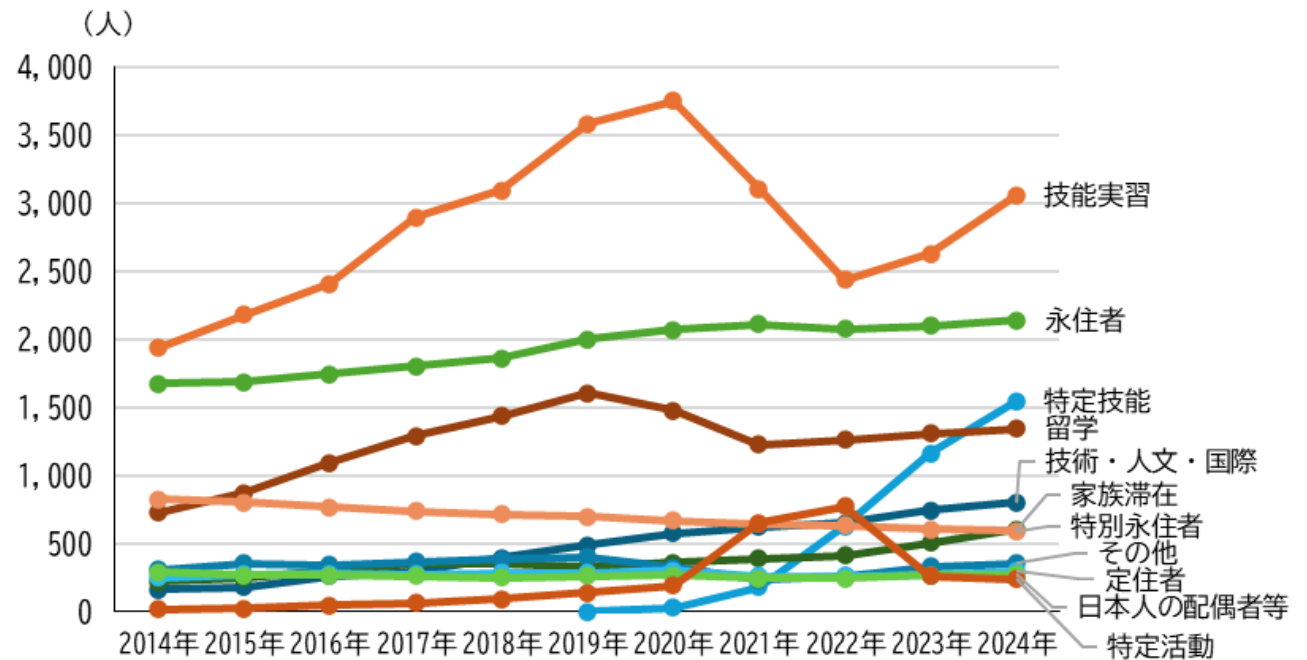
「技能実習」は2021年（令和3年）に新型コロナウイルス感染症の影響で、一時減少したものの、2022年（令和4年）以降は増加傾向にあります。また、「技術・人文知識・国際業務」や「特定技能」なども増加傾向にあります。

■在留資格別割合



資料：福山市(2024年5月末)

■在留資格別の推移



資料：法務省 在留外国人統計(各年12月末)

中国では「永住者」が1,000人を超えて最も多いのに対し、増加傾向にあるベトナムやフィリピン、インドネシアなどでは「技能実習」や「特定技能」といった在留資格者が多くを占めています。

また、特徴的なところとして、フィリピンは「永住者」、ベトナムは「技術・人文知識・国際業務」や「家族滞在」なども多くなっています。

■在留資格別人口(国籍・地域別)※

単位：人	永住者	技能実習	技術・ 人文知識・ 国際業務	留学	家族滞在	定住者	特定技能	日本人の 配偶者等	特定活動	特別 永住者	その他	合計
ベトナム	77	1,399	470	337	361	13	604	37	131	0	31	3,460
中国	1,094	187	122	151	95	57	40	64	15	5	95	1,925
フィリピン	378	595	9	23	17	137	540	65	26	0	108	1,898
インドネシア	40	441	17	4	26	3	265	13	20	0	14	843
ネパール	14	18	69	604	62	3	0	0	0	0	22	792
東アジア	91	1	34	3	2	1	2	24	0	582	11	751
東南アジア	28	381	28	55	4	2	89	12	36	0	2	637
中南米	331	0	1	1	1	61	0	17	1	0	11	424
南アジア	5	19	33	156	23	3	3	2	0	0	19	263
ヨーロッパ	34	0	7	6	1	11	0	16	4	0	12	91
北米	29	0	7	0	4	2	0	13	0	0	18	73
オセアニア	9	0	0	0	3	0	0	3	0	1	3	19
アフリカ	4	0	5	1	2	0	0	1	2	0	3	18
中央アジア	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13
出生経過	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4
西アジア	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
総数	2,135	3,054	802	1,341	601	293	1,543	268	235	588	353	11,213

※ベトナム、フィリピン、中国、インドネシア、ネパール以外は地域別に分類。

資料：福山市(2024年5月末)

このプランにおける在留資格区分は、次のとおりとしています。

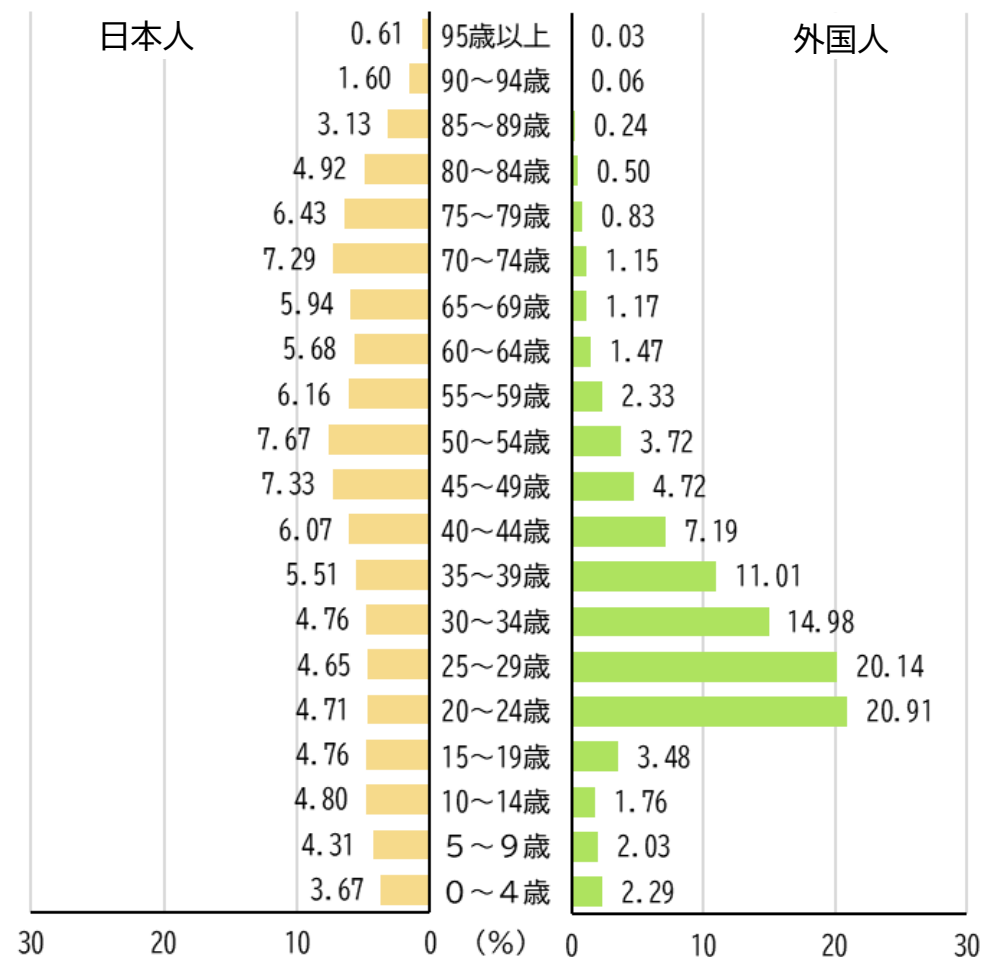
永住者	技能実習	技術・人文知識・国際業務	留学	家族滞在
永住者	技能実習1号イ 技能実習1号ロ 技能実習2号イ 技能実習2号ロ 技能実習3号イ 技能実習3号ロ	技術・人文知識・国際業務	留学	家族滞在
定住者	特定技能	日本人の配偶者等	特定活動	特別永住者
定住者	特定技能1号 特定技能2号	日本人の配偶者等	特定活動	特別永住者
その他				
高度専門職1号イ 高度専門職1号ロ 高度専門職1号ハ 高度専門職2号イ 高度専門職2号ロ 高度専門職2号ハ 高度専門職2号ニ	医療 介護 企業内転勤 教育 興行 永住者の配偶者等	研究 法律・会計業務 研修 文化活動 教授 芸術	宗教 報道 技能 経営・管理 出生経過	

(4) 年齢別構成

本市の日本人と外国人のそれぞれの年齢別構成比をみると、日本人は各年齢に分散し、65歳以上が合計で約30%となっているのに対し、外国人は20歳代が約41%、次いで30歳代が約26%と高くなっており、20～30歳代で外国人のおよそ3分の2を占めています。

また、外国人の15歳未満の構成比をみると、0～4歳が最も多く、今後、保育や義務教育を受ける外国にルーツを持つ子どもが増えていくことが見込まれます。

■本市の年齢別人口構成比



資料：法務省 住民基本台帳人口(2024年1月1日)

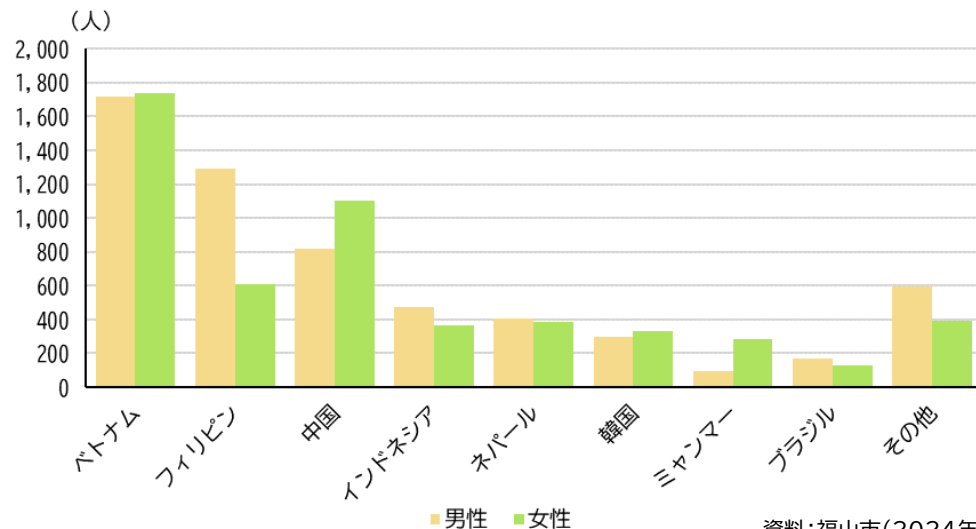
(5) 男女別構成

本市の外国人を男女別でみると、国籍別ではベトナムや中国などで女性が多くなっています。

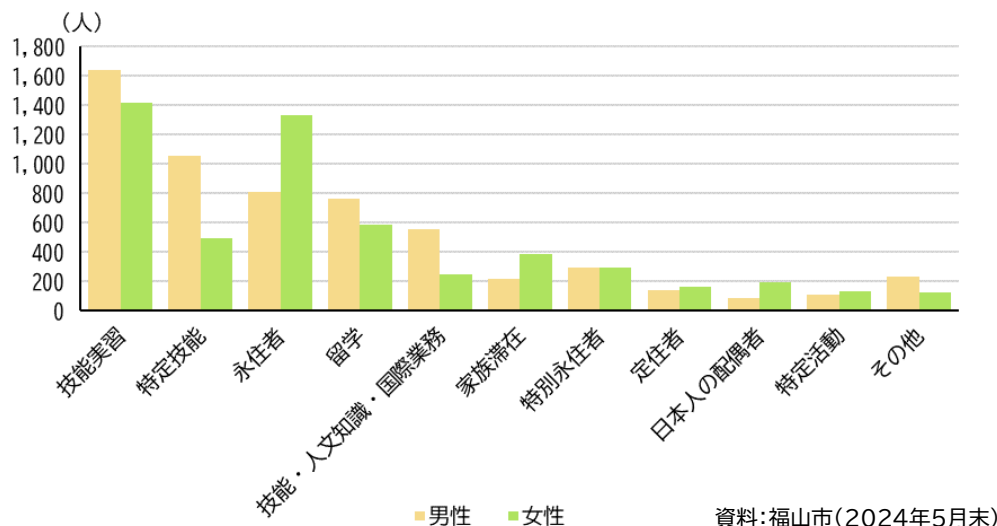
在留資格別では、「技能実習」や「特定技能」などで男性が多くなっていますが、「永住者」や「家族滞在」などは女性が多くなっています。

年齢別では、20～39歳で男性が多くなっており、40歳以上は女性が多くなっています。

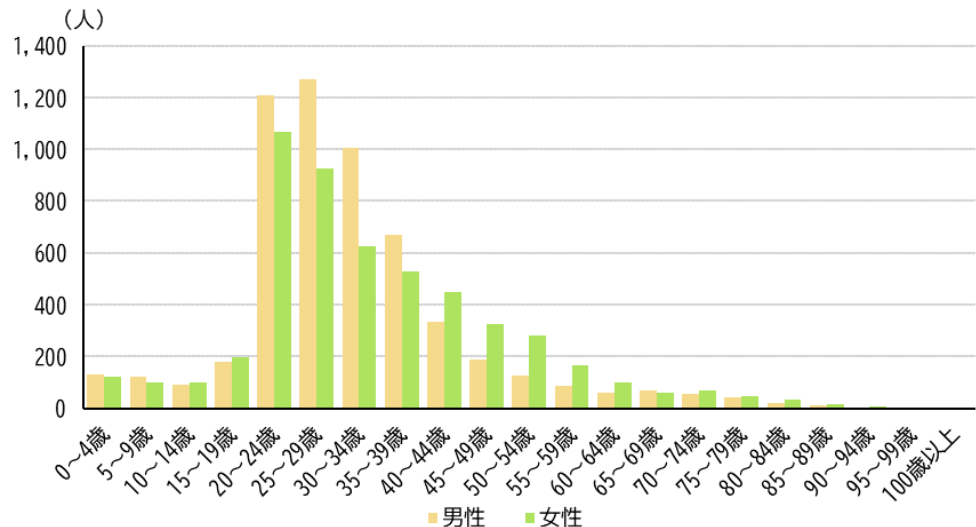
■国籍別・男女別構成

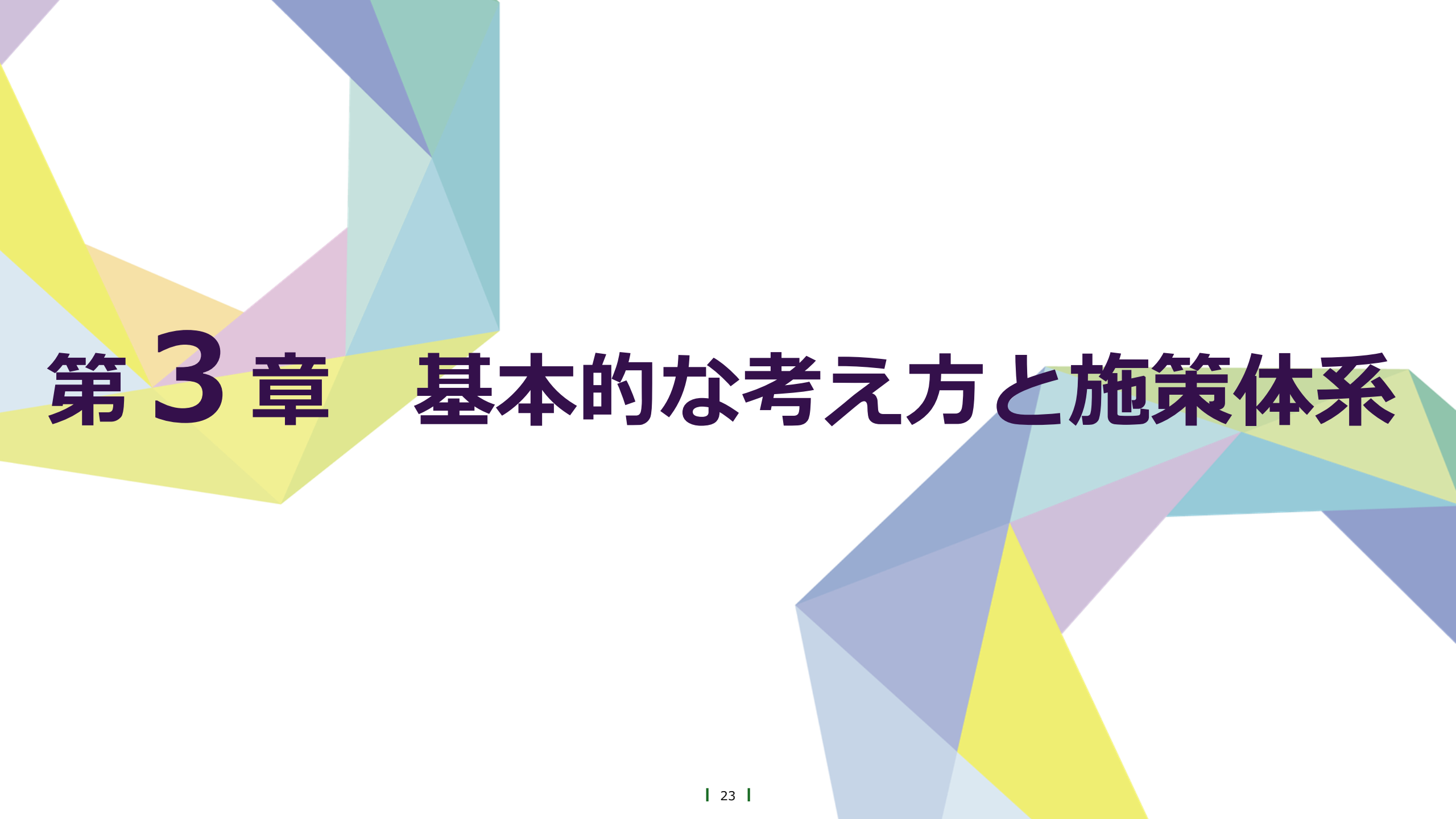


■在留資格別・男女別構成



■年齢別・男女別構成





第3章 基本的な考え方と施策体系

1 基本理念

多文化共生のまちづくりに向けためざす姿として、基本理念を定めます。

互いを認め合い 多様性を活力に みんなで創る 多文化共生のまち

近年では、外国人住民が年々増加し、ベトナムをはじめとした東南アジア諸国出身者の増加など、多国籍化が進んでいます。こうした中、誰もが安心安全に暮らすことができる社会の実現のためには、互いの生活習慣や文化、価値観の違いを認め合い、尊重し合うことが重要です。

また、外国人住民も共に地域をつくる一員として、誰もが能力を発揮し、活躍できるまちづくりに取り組む必要があります。

全ての住民の人権が尊重され、共に暮らす住民としてお互いを理解し、多様性を生かしながら、誰もが参画できる社会の実現に向けて、住みたいまちとして選ばれ、住みたいと思える多文化共生のまちをめざします。

2 基本方針と施策体系

基本理念を達成するために必要な3つの基本方針と、基本方針の実現に向けた施策体系を示します。

基本理念

互いを認め合い
多様性を活力に
みんなで創る
多文化共生のまち

基本方針

1 コミュニケーションを通じて
つながり合うまちづくり

2 誰もが安心安全に暮らし
続けることができるまちづくり

3 誰もが活躍できるまちづくり

施策体系

- | | |
|---------------------------|----|
| 1 日本語学習機会の充実 | 重点 |
| 2 外国人住民に伝わるコミュニケーション手段の普及 | |
| 3 相互理解の促進と多文化共生の機運醸成 | |
| 1 行政情報等の多言語化の推進 | |
| 2 生活相談体制の充実 | 重点 |
| 3 オリエンテーションとアウトリーチによる支援 | 重点 |
| 4 こどもの教育機会の確保 | |
| 5 子育て・保健・福祉・医療・介護等に関する支援 | |
| 6 防災、交通安全・防犯の推進 | |
| 7 住まいの確保と就労環境の整備 | |
| 1 外国人材の受入れ支援 | |
| 2 定着促進とキャリア形成支援 | 重点 |
| 3 地域社会への参画と協働 | |
| 4 海外都市等との国際交流 | |

※本プランと、びんご圏域多文化共生推進ビジョンは、基本理念、基本方針、施策体系及び施策の方向性を共通のものとして定めます。ただし、重点項目については、本プラン独自のものとし、本市が重点的に取り組む施策とします。

3 基本方針と施策の方向性

基本理念を実現するため、3つの基本方針を定め、めざす姿を明確にして施策を推進します。

基本方針1 コミュニケーションを通じてつながり合うまちづくり

外国人住民と地域住民が共に生活していくため、円滑なコミュニケーションを促進するとともに、交流を深めることで、お互いを理解し尊重し合えるまちづくりを推進します。

現状

- ・ 日本語を学ぶ目的が、生活のためや仕事のためなど、多様化している
- ・ 日本語が理解できず、生活に必要な情報を入手できなくて困っている外国人住民がいる
- ・ 日本語を勉強したい外国人住民が多くいる
- ・ 地域住民に「やさしい日本語」が認知されていない
- ・ 外国人住民のなかには、地域住民と仲良くなりたいと思っている人が多くいる
- ・ 外国人住民が増えることについて、文化や言葉、生活習慣等の違いから不安を感じる地域住民がいる

めざす姿

- ・ 日本語学習を希望する人に、希望に沿った日本語学習の機会がある
- ・ 生活に必要な日本語能力が身に付いている
- ・ 「やさしい日本語」が多くの地域住民に認知され、外国人住民とのコミュニケーションに活用されている
- ・ 外国人住民と地域住民や、外国人住民同士のコミュニケーションの機会が増えている
- ・ 多文化共生の理解を深める交流の場が身近にある

●施策の方向性

施策体系	施策の方向性
1-1 日本語学習機会の充実 重点	外国人住民が、生活に必要な日本語能力を身に付け、地域社会において、コミュニケーションを図り、円滑な生活が送れるよう、日本語学習機会の充実を図ります。
1-2 外国人住民に伝わるコミュニケーション手段の普及	外国人住民にも大切な情報が伝わり、円滑なコミュニケーションが図れるよう、「やさしい日本語」の普及に取り組みます。 また、翻訳アプリ等のICTを活用したコミュニケーションを推進します。
1-3 相互理解の促進と多文化共生の機運醸成	全ての人の人権を尊重し、相互理解を深め、多文化共生のまちづくりに向けた機運の醸成を図ります。

コラム

「やさしい日本語」ってなに？

やさしい日本語とは…

難しい言葉を言い換えたり、ルビを振るなど、伝える相手に配慮したわかりやすい日本語

やさしい日本語は、1995年（平成7年）の阪神・淡路大震災をきっかけに、外国人住民にも迅速に災害などの情報伝達を行う手段として広まりました。

外国人住民だけでなく、こどもや高齢者、障がいのある人々に対しても、伝わりやすい言葉です。

あなたも、やさしい日本語を意識して使ってみましょう。

在留支援のための
やさしい日本語ガイドライン
(出入国在留管理庁ホームページ)



基本方針2 誰もが安心安全に暮らし続けることができるまちづくり

外国人住民が、様々なライフステージとその移行期で困ることがないように、相談・支援体制を充実し、日本人と同様のサービスが受けられる環境をめざします。

現状

- 行政情報が外国人住民に届いていない
- 相談窓口があることを知らない外国人住民が多い
- 外国人住民にとって、日本の文化や生活習慣を理解することが難しい
- 外国にルーツを持つこどもが増加している
- 災害時に、どう行動したらよいか分からない外国人住民が多い
- 外国人住民の住宅確保が困難な状況がある

めざす姿

- 母語等の理解できる言語で行政情報が入手できる
- 困った時に相談できる窓口を知っており、自ら相談することができる
- 日本語指導が必要な全てのこどもが必要な指導を受けることができるなど、安心して学べる環境が整っている
- 外国人住民が安心して必要な行政サービス（子育て・保健・福祉・医療・介護等）を受けることができる
- 外国人住民が災害や防災に対する事前の備えができ、災害時には災害情報を入手し、適切な避難行動をとることができる
- 安心安全に暮らせる住居と就労環境が整っている

● 施策の方向性

施策体系	施策の方向性
2-1 行政情報等の多言語化の推進	外国人住民が必要な行政サービス等についての情報を受けられるよう、多言語での情報発信を推進します。
2-2 生活相談体制の充実 重点	外国人住民が相談できる体制の充実と、その周知を図ります。
2-3 オリエンテーションとアウトリーチ※による支援 重点	様々なライフステージとその移行期における体系的・計画的な支援を推進します。
2-4 こどもの教育機会の確保	外国にルーツを持つこどもの増加や多様化に対応し、全てのこどもが安心して学べる環境づくりを推進します。
2-5 子育て・保健・福祉・医療・介護等に関する支援	外国人住民が安心して生活をするために必要な行政サービス（子育て・保健・福祉・医療・介護等の各分野）を受けられるよう、多言語化等への取組の充実を図ります。
2-6 防災、交通安全・防犯の推進	外国人住民が、災害の備えを行うことができ、災害時に適切な避難行動ができるよう、支援します。 交通安全・防犯についての啓発を推進します。
2-7 住まいの確保と就労環境の整備	適正な居住環境の確保と、就労環境の整備を推進します。

※必要な人に必要なサービスや情報が届くよう、積極的に支援すること

基本方針3 誰もが活躍できるまちづくり

地域の維持・活性化に向け、新たな外国人材の受入れや、外国人住民の備後圏域内での定着を支援するとともに、外国人住民との連携・協働を通じて、誰もが活躍できるまちづくりを推進します。

現状

- ・ 日本国内に就職する留学生の約半数が備後圏域外の企業や団体に就職している
- ・ 外国人材の受入れに興味はあるが、その方法が分からない企業や団体がある
- ・ 地域住民と仲良くなりたい外国人住民や、自分と異なる文化等を学びたい地域住民が多い
- ・ 地域の行事に参加している外国人住民が少ない

めざす姿

- ・ 留学生が備後圏域内に就職を希望し、就職した企業や団体に活躍している
- ・ 外国人材の受入れを希望する企業や団体が外国人材を雇用できている
- ・ 外国人住民と地域住民が共に地域の一員として地域行事等に参画し、地域の活性化につながっている
- ・ 外国人材が備後圏域を選び定着し、住み続けている

●施策の方向性

施策体系	施策の方向性
3-1 外国人材の受入れ支援	外国人材を雇用している又は雇用を希望している企業や団体が、適正かつ円滑な外国人材の受入れができるよう、支援します。
重点 3-2 定着促進と キャリア形成支援	職場体験などにより、留学生の備後圏域内の企業や団体への就職を促進します。キャリアアップができるよう、日本語の学習支援を産学官で連携して推進します。
3-3 地域社会への参画と 協働	地域の維持・活性化に向けて、外国人住民との連携・協働を推進します。
3-4 海外都市等との 国際交流	親善友好都市をはじめとする海外都市との交流を推進し、経済、文化、教育など様々な分野において市民レベルでの交流を推進します。



第4章

目標と具体的施策

基本理念を実現するため、3つの基本方針ごとに、目標到達に向けた進捗を図る指標を設定します。
また、施策の内容と役割分担を示します。

基本方針 1 コミュニケーションを通じてつながり合うまちづくり

(1) 目標指標 (KPI)

指標	現状 (2024年度)	目標値 (2029年度)
日本語で会話ができると回答した外国人の割合	22.8%	40.0%
外国人が増える事について良い影響があると回答した日本人の割合	43.4% (2021年度)	55.0%

(2) 具体的な取組内容

1-1 日本語学習機会の充実

重点

外国人住民が、生活に必要な日本語能力を身に付け、地域社会において、コミュニケーションを図り、円滑な生活が送れるよう、日本語学習機会の充実を図ります。

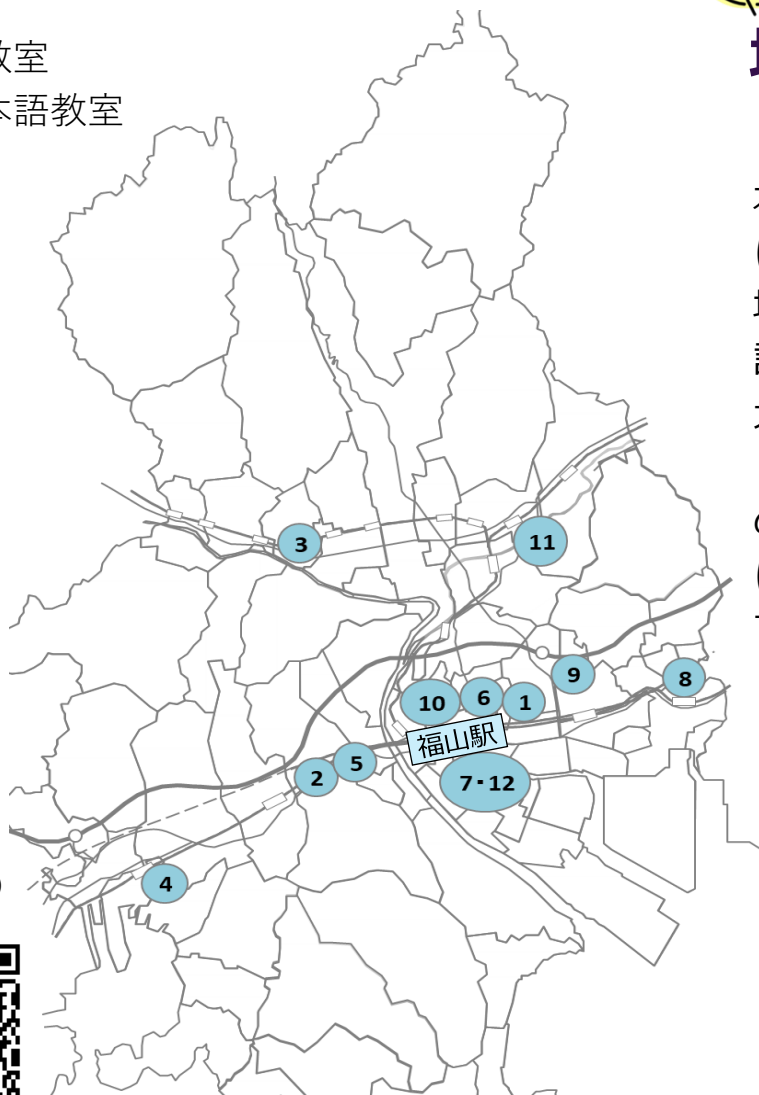
取組内容	担当課	主な連携先
1-1-1 地域日本語教室の充実 生活に必要な日本語を学習しながら、外国人住民と地域住民や、外国人住民同士の交流・つながりの場として、地域の情報や文化、生活に必要な情報を得ることができ、生活に係る相談もできる体制づくりをめざします。	多様性社会推進課 各地域振興課 福祉総務課	外国人支援団体 広島県 ふくやま国際交流協会
1-1-2 日本語学習支援に携わる人材の育成 外国人住民が生活に必要な日本語を身近なところで学ぶことができるよう、日本語学習に携わる人材を育成します。	多様性社会推進課	外国人支援団体 広島県
1-1-3 地域や職場で実施する日本語学習への支援 企業や団体に働く外国人住民、学校に在籍する児童・生徒とその保護者、社会とつながりの薄い外国人住民など、それぞれが必要な日本語を習得できるよう、地域や職場での日本語学習を支援します。	多様性社会推進課 各地域振興課	外国人支援団体 関係機関 企業・団体 広島県 ふくやま国際交流協会

福山市内の地域日本語教室設置状況（2024年4月時点）

- ① 多文化共生事業深津日本語教室
- ② 中国帰国者援護事業瀬戸日本語教室
- ③ ふ～じゅ
- ④ まつなが日本語教室
- ⑤ 日本語教室すまいりい
- ⑥ NGOふくやま日本語教室
「ともだちひろば」
- ⑦ 日本語ワンペアレッスン
- ⑧ 大門日本語教室
- ⑨ 多文化教室なないろ
- ⑩ インターナショナルチーム
日本語教室
- ⑪ 御野日本語教室
- ⑫ 日本語サロン

※民間運営・・・③⑥⑧⑩

ふくやま国際交流協会・・・⑦⑫



地域日本語教室のご案内
(市ホームページ)

コラム

地域日本語教室ってどんなところ？

地域日本語教室は、「生活者としての外国人」が、日本で生活する上で必要な日本語を学ぶ場所であり、さらに地域住民との交流を通じて、日本語以外にも、生活や地域の情報、文化等も学ぶことができる場所です。日本語を学びながら、地域とのつながりをもつことができる、大切な居場所になっています。

本市には、2024年（令和6年）4月時点で、12か所の地域日本語教室があります。多文化共生のまちづくりに興味がある人は、ぜひ地域の日本語教室に参加してみてください。



地域日本語教室の一例（⑫日本語サロン）

1-2 外国人住民に伝わるコミュニケーション手段の普及

外国人住民にも大切な情報が伝わり、円滑なコミュニケーションが図れるよう、「やさしい日本語」の普及・啓発に取り組みます。
また、翻訳アプリ等のICTを活用したコミュニケーションを推進します。

取組内容	担当課	主な連携先
1-2-1 「やさしい日本語」の普及 「やさしい日本語」の普及に向け、地域住民や企業・団体を対象とした講座の開催や、行政職員等を対象とした研修を実施します。 また、ホームページやSNSでも「やさしい日本語」で発信を行います。	多様性社会推進課 情報発信課 人材育成課	関係団体 企業・団体 地域コミュニティ ふくやま国際交流協会
1-2-2 翻訳アプリ等のICTの活用の推進 多国籍化する外国人住民とのコミュニケーションを可能とする翻訳アプリやツールの周知を図るなど、ICTの活用を推進します。	多様性社会推進課 ICT推進課	ふくやま国際交流協会
1-2-3 地域住民を対象とした外国語学習機会の提供 外国語会話サロンを実施するなど、コミュニケーションやボランティア活動に役立つ外国語を学ぶ機会を提供します。	多様性社会推進課	ふくやま国際交流協会

1-3 相互理解の促進と多文化共生の機運醸成

全ての人の人権を尊重し、相互理解を深め、多文化共生のまちづくりに向けた機運の醸成を図ります。

取組内容	担当課	主な連携先
1-3-1 相互理解のための交流や意識啓発 外国人住民・各種団体・地域等と連携し、交流イベントや多文化共生への理解を深める講座等を開催します。母国の文化や日本文化を紹介するなど、外国人住民と地域住民が相互に交流し、理解を深める場づくりを推進します。	多様性社会推進課 各地域振興課 各交流館	関係団体 地域コミュニティ ふくやま国際交流協会
1-3-2 外国人差別の解消に向けた取組 人権啓発に関する広報物の作成や研修会等の機会を通じて、外国人に対する偏見や差別意識の解消に取り組みます。 併せて、外国人住民に関する人権相談の実施及び周知に努めます。	多様性社会推進課 各地域振興課	関係機関 法務局
1-3-3 多文化共生に取り組む団体等の活動共有 多文化共生の推進に積極的に取り組む地域や団体、企業等をロールモデルとして情報発信するとともに、団体間の情報共有を図ります。	多様性社会推進課 まちづくり推進課	外国人支援団体 関係団体 企業 ふくやま国際交流協会

コラム

多文化共生について一緒に学びませんか？

本市では、多文化共生とは何か、多文化共生社会の実現のために何ができるかなどを学ぶ講座等を実施しています。講座やワークショップを通じて、一緒に学び、多文化共生のまちづくりについて考えましょう。



講座の様子

基本方針 2 誰もが安心安全に暮らし続けることができるまちづくり

(1) 目標指標 (KPI)

指標	現状 (2024年度)	目標値 (2029年度)
市役所などの外国人相談窓口があることを知っている外国人の割合	53.7%	75.0%
生活で困ったことがないと回答した外国人の割合	41.9%	60.0%

(2) 具体的な取組内容

2-1 行政情報等の多言語化の推進

外国人住民が必要な行政サービス等についての情報を受けられるよう、多言語での情報発信を推進します。

取組内容	担当課	主な連携先
2-1-1 多言語による情報発信 ホームページやA Iチャットボットの自動翻訳機能を活用するとともに、外国人住民が多く利用するSNSで情報発信を行います。	情報発信課 I C T推進課 多様性社会推進課	外国人支援団体 広島県 ふくやま国際交流協会
2-1-2 多言語化に関するガイドラインや用語集の作成 文書や施設表示等の多言語化をする際の基準やルールを示したガイドラインや用語集を作成します。 また、駅や公共施設・公共交通機関等の表示の多言語化を推進します。	多様性社会推進課 観光戦略課	福山観光コンベンション協会
2-1-3 窓口等での多言語対応の推進 翻訳アプリ等のI C Tを活用し、外国人住民に対する窓口での多言語対応を推進します。	多様性社会推進課 I C T推進課	企業・団体 ふくやま国際交流協会
2-1-4 文書のデジタル化をはじめとしたD Xの推進 外国人住民が自動翻訳機能を利用した手続きが可能となるよう、文書のデジタル化を推進します。また、電子申請や書かない窓口等、D Xの取組を進めていきます。	多様性社会推進課 I C T推進課 デジタル化推進課	—

2-2 生活相談体制の充実

重点

外国人住民が相談できる体制の充実と、その周知を図ります。

取組内容	担当課	主な連携先
2-2-1 外国人相談窓口の充実 生活上の様々な困りごとについて多言語で相談できる外国人相談窓口や、オンライン相談を充実・周知します。必要に応じて関係課や関係機関につなぎます。 外国語相談員が対応できない言語については、翻訳アプリ等を活用し、対応します。	市民生活課 松永市民サービス課	関係機関 広島県
2-2-2 身近な交流館等での相談対応 各支所や交流館等が、外国人住民にとっても、身近な相談窓口となるよう取り組みます。相談に対して、必要に応じて関係課や関係機関につなぎます。	まちづくり推進課 市民生活課 各地域振興課 各交流館	関係機関

コラム

外国語で相談したいときは？

窓口や電話での相談や、Facebookなどのオンラインでの相談もできます。

市民生活課（本庁）では、英語・ベトナム語・中国語、松永市民サービス課（松永支所）では、英語・ポルトガル語が対応可能です。



外国人相談窓口（本庁）

外国人相談窓口
(市ホームページ)

2-3 オリエンテーションとアウトリーチによる支援

重点

様々なライフステージとその移行期における体系的・計画的な支援を推進します。

取組内容	担当課	主な連携先
2-3-1 ライフステージの継ぎ目における体系的・計画的な支援 入学や就職等、ライフステージの継ぎ目において、外国人住民が適切な行政サービスを受けられるよう情報提供等を行い、誰ひとり取り残されることのない支援を行います。	多様性社会推進課 関係各課	外国人支援団体 ふくやま国際交流協会
2-3-2 生活ルールなどについての理解促進 日本の生活や地域のルールなどを外国人住民に周知するため、転入時の生活情報リーフレットの配布や、ごみ出しルール等の動画配信等を行います。	多様性社会推進課 環境総務課	外国人支援団体 監理団体 企業・団体 教育機関 ふくやま国際交流協会
2-3-3 企業・団体や外国人コミュニティと連携したニーズの把握 企業や関係団体、外国人コミュニティ等から定期的に情報収集を行い、外国人住民の現状やニーズの把握に努め、必要な施策へ反映します。	多様性社会推進課	外国人支援団体 関係団体 企業・団体 ふくやま国際交流協会



◀ 外国人のための生活に役立つ情報リーフレット

外国人のための生活に役立つ
情報リーフレット
(市ホームページ)



2-4 こどもの教育機会の確保

外国にルーツを持つこどもの増加や多様化に対応し、全てのこどもが安心して学べる環境づくりを推進します。

取組内容	担当課	主な連携先
2-4-1 外国にルーツをもつこどもが安心して学べる環境づくり 小・中学校の入学や学校生活、その他制度等について、保護者への多言語での情報提供やこどもへのサポート等を行います。 全ての児童・生徒を対象に、多文化共生の考え方に基づく教育を推進します。	学びづくり課 学事課 学校保健課	外国人支援団体 広島県 ふくやま国際交流協会
2-4-2 学校へ編入学するこどもへの支援 日本の学校に入学又は転入する児童・生徒に対し、スムーズに学校生活や学習環境に適応できるよう、日本語指導等の支援を行います。	学びづくり課 学事課 保育指導課	外国人支援団体 広島県
2-4-3 進路指導における情報提供やキャリア教育への対応 外国にルーツを持つこどもの高等学校進学に向けて、中学校等において生徒とその保護者に対して進路ガイダンス・進路相談等を実施します。	学びづくり課 学事課	広島県
2-4-4 学校における日本語指導体制の充実 日本語指導が必要な児童・生徒の増加に対応できるよう、日本語指導の教諭及び非常勤講師を適正に配置し、外国人児童・生徒に対する教育の研修等を実施します。	学びづくり課 学事課	広島県

2-5 子育て・保健・福祉・医療・介護等に関する支援

外国人住民が安心して生活をするために必要な行政サービス（子育て・保健・福祉・医療・介護等の各分野）を受けられるよう、多言語化等への取組の充実を図ります。

取組内容	担当課	主な連携先
2-5-1 子育て・保健・福祉サービスの提供 子育てや保健、福祉サービス等を適切に利用できるよう、多言語による情報提供や通訳派遣を行います。	ネウボラ推進課 各保健福祉課 多様性社会推進課	福山市社会福祉協議会
2-5-2 医療分野における多言語対応 医療通訳ボランティア制度の活用や、電話通訳・機械翻訳サービス等を組み合わせるなど、安心して医療を受けられるよう取り組みます。	市民病院医事課 多様性社会推進課	関係団体 広島県
2-5-3 高齢化する外国人住民への支援 外国人高齢者がそれぞれの状態に応じたサービスを利用できるよう、介護保険制度の周知等、適切な情報提供と手続きに関する支援を行います。	高齢者支援課 介護保険課 保険年金課 各保健福祉課	外国人支援団体 福山市社会福祉協議会

コラム

福山市子育て支援通訳ボランティアってなに？

母子保健サービスで保健師が自宅を訪問する際などに、訪問先の妊産婦等が日本語を十分に理解できない場合は、通訳ボランティアが同行し、言語面でサポートします。

通訳ボランティアを通じて、円滑なコミュニケーションを図ることで、子育てへの不安を軽減し、安心して子育てができる環境づくりに努めています。



子育て支援通訳ボランティアの様子

2-6 防災、交通安全・防犯の推進

外国人住民が、災害の備えを行うことができ、災害時に適切な避難行動ができるよう、支援します。
交通安全・防犯についての啓発を推進します。

取組内容	担当課	主な連携先
2-6-1 災害時及び災害発生後の対応の充実 防災メールの多言語対応やSNSによる発信等、災害時に外国人住民や訪日外国人に情報を届けるための媒体の充実を図ります。 避難所が開設された際の、外国人住民への支援体制を構築します。	危機管理防災課 福祉総務課 多様性社会推進課	関係団体 広島県 福山観光コンベンション協会 福山市社会福祉協議会
2-6-2 防災啓発の推進 外国人住民に対する防災教室の開催など、平常時からの防災啓発を行い、外国人住民が災害時に適切な行動ができるよう取り組みます。	多様性社会推進課 危機管理防災課 消防局	関係団体 企業・団体 地域コミュニティ
2-6-3 交通安全や防犯活動に関する情報や学習機会の提供 交通安全や防犯に関する情報提供や出前講座等の学習機会を提供します。	市民生活課	警察署

コラム 外国人住民も避難訓練に参加しています

外国人住民の中には、災害の時の避難場所や、避難行動などについて分からない人がいます。

市では、外国人住民と一緒に地域の防災訓練に参加するなどして、災害について学ぶ機会を作っています。



総合防災訓練参加の様子

2-7 住まいの確保と就労環境の整備

適正な居住環境の確保と、就労環境の整備を推進します。

取組内容	担当課	主な連携先
2-7-1 外国人住民に対する居住支援 外国人住民の入居を拒まないセーフティネット住宅の登録を推進するなど、外国人住民の入居支援に取り組みます。	住宅課	関係団体 広島県
2-7-2 働きやすい就労環境の整備 就労環境の課題等を把握し、関係機関や企業等と連携し、改善に努めます。	産業振興課	外国人支援団体 関係機関 企業・団体

基本方針3 誰もが活躍できるまちづくり

(1) 目標指標 (KPI)

指標	現状 (2024年度)	目標値 (2029年度)
福山市にずっと住み続けたいと思う外国人の割合	32.0%	50.0%
外国人留学生の市内就職者数	58人 (2022年度)	80人
国籍や言語の異なる人と日頃から付き合いがあると答えた日本人の割合 ※「親しく付き合っている（知人、友人、職場の同僚等）」、「あいさつ程度の付き合いがある（近所に住んでいる等）」の合計値	27.8% (2021年度)	40.0%

(2) 具体的な取組内容

3-1 外国人材の受入れ支援

外国人材を雇用している又は雇用を希望している企業や団体が、適正かつ円滑な外国人材の受入れができるよう、支援します。

取組内容	担当課	主な連携先
3-1-1 外国人雇用に係るセミナーの開催 外国人材の受入れを検討している企業・団体に対し、外国人材の雇用定着や企業・団体の不安解消に向けたセミナー等を開催します。	産業振興課	企業・団体 広島県 産業支援機関
3-1-2 外国人への配慮のある店舗やサービス等の周知 宗教上の制限や、食文化の違いから不安を感じている外国人住民が、安心安全に暮らせるよう、ハラル対応等、外国人への配慮のある店舗やサービスの周知を行います。	多様性社会推進課 観光戦略課	外国人支援団体 福山観光コンベンション協会 ふくやま国際交流協会

コラム

ハラルってなに？

ハラル（アラビア語：H a l a l）とは、イスラム教において、「許されたもの」のことをいいます。例えば、食事において豚肉を食べてはいけない、アルコールや動物性の食材を口にすることは避けなければならないなどの決まりがあり、配慮が必要です。

3-2 定着促進とキャリア形成支援

重点

職場体験などにより、留学生の備後圏域内企業や団体への就職を促進します。キャリアアップができるよう、日本語の学習支援を産学官で連携して推進します。

取組内容	担当課	主な連携先
3-2-1 外国人留学生等の職場体験や企業・団体との連携による定着支援 外国人留学生等が日本社会や職場での体験を通じて、地域企業や地域住民とのつながりを持ち、備後圏域の企業や団体への就職と定着を促進します。	産業振興課	企業・団体 教育機関 広島県
3-2-2 企業・団体に働く外国人住民等を対象とした日本語学習への支援 就労している外国人住民のための日本語学習の充実に関する取組を支援します。	産業振興課 多様性社会推進課	企業・団体 教育機関 産業支援機関
3-2-3 多文化共生分野の事業へのサポート 多文化共生に係る事業や起業に関する相談に対応します。	産業振興課 まちづくり推進課 多様性社会推進課	関係機関

3-3 地域社会への参画と協働

地域の維持・活性化に向けて、外国人住民との連携・協働を推進します。

取組内容	担当課	主な連携先
3-3-1 外国人住民も参画する交流イベントの開催 外国人住民の母国の文化や日本文化を紹介する交流イベント等を開催し、外国人住民と地域住民が交流する機会を設けます。	多様性社会推進課 各地域振興課 各交流館	外国人支援団体 関係団体 広島県 ふくやま国際交流協会
3-3-2 地域活動への外国人住民の参加促進 地域の実情に応じて、外国人住民が地域活動（自治会・ボランティア活動・消防団等）へ参画できるよう支援します。	多様性社会推進課 各地域振興課	外国人支援団体 地域コミュニティ 広島県 ふくやま国際交流協会
3-3-3 外国人コミュニティとの連携や協働の推進 外国人コミュニティのキーパーソンとなる人物や外国人住民のネットワークを発掘し、地域の維持活性化に向けて、連携・協働の取組を推進します。	多様性社会推進課 各地域振興課	外国人支援団体 関係団体 地域コミュニティ 広島県

コラム イベント等に参加して、交流しませんか？

ふくやま国際交流協会では、外国人住民が自分たちの国の料理や踊りを紹介したり、書道や着物の着付けなど、日本の文化を体験できるイベントを開催しています。

本市で暮らしている外国人住民の文化に触れたり、日本の文化を伝えたりできる機会です。ぜひ参加してみてください。



交流イベントでの様子



書道体験会での様子

3-4 海外都市等との国際交流

親善友好都市をはじめとする海外都市との交流を推進し、経済、文化、教育など様々な分野において市民レベルでの交流を推進します。

取組内容	担当課	主な連携先
3-4-1 親善友好都市等との交流の推進 親善友好都市をはじめとする海外都市との交流を推進し、経済、文化、教育などの様々な分野において市民レベルでの交流を推進します。	秘書課 多様性社会推進課 学びづくり課	関係団体 教育機関 地域コミュニティ ふくやま国際交流協会
3-4-2 国際交流事業への支援と活躍の場づくり 地域や民間等、多様な主体による様々な分野における国際交流事業を支援します。また、それらの事業に、外国人住民の視点やノウハウを生かせるよう、連携を図ります。	多様性社会推進課	関係団体 地域コミュニティ ふくやま国際交流協会



第5章 プランの推進

1 推進体制

本プランに基づき、多文化共生施策を計画的かつ総合的に推進します。

なお、外国人住民に関する分野は、生活支援・生活相談、情報提供、教育、まちづくりなど多岐にわたるため、行政や住民、ボランティア等の関係団体や外国人支援団体、地域コミュニティ、大学等の教育機関、企業・団体等と連携し、施策を推進します。

また、広島県、備後圏域市町及び関係機関等と情報交換を行うなど、連携を図る中で、効率的かつ効果的な施策展開に努めます。



2 各主体の役割

市

- 外国人住民を含む全ての住民が、平等に行政サービスを享受し、安心安全に暮らせるよう、環境整備に取り組みます。
- 多文化共生に関する住民のニーズを的確に把握するとともに、関係部署が協議や意見交換を行いながら本プランに基づく施策を推進します。
- それぞれの事業主体による活動を支援するとともに、ネットワーク機能を強化することにより、各主体がそれぞれ役割を果たしながら連携し、取組を継続・発展できる体制の整備に努めます。
- 市職員に対して、やさしい日本語の使用や多言語化等、多文化共生の視点を踏まえた施策が実施できるよう研修等の充実に取り組みます。

住民

- 国籍や民族、文化に関係なく、住民一人ひとりが、職場や学校、地域等、様々な交流の機会を通じ、お互いの文化的違いを認め合い、理解し尊重し合うことが期待されます。
- 地域コミュニティの一員として、外国人住民が地域での活躍や社会参画が進むよう交流を深めること、また外国人住民は、生活に必要な日本語の習得や地域社会のルールなどについて学習することに努めることが大切です。お互いが協力し合い、地域づくりを行うことが期待されます。

ふくやま国際交流協会

- 市と連携して、多言語情報の収集や提供、日本語教室等の開催、多文化共生の啓発活動、多文化交流事業等、地域のニーズや課題を踏まえた取組の充実が期待されます。
- 市と様々な主体間との橋渡しやネットワークの構築等の役割が求められます。

教育機関

- 外国にルーツを持つ子どもたちが、安心して学ぶことができるよう、日本語学習の充実や児童・生徒、保護者に対し、学校制度についての情報提供を行うとともに、学びやすい教育環境づくりを進めることが期待されます。
- 授業や学校行事等を通じて、自分と異なる文化への興味や理解を育むことが求められます。
- ボランティアやNPO・NGOなどの外国人支援団体や行政等と連携し、調査研究や課題分析、提言等を行うなど、課題解決への取組を通じた地域貢献や多文化共生・国際化の分野で活躍できる人材の育成が期待されます。

外国人支援団体・関係団体

- ・ ボランティア、NPO・NGOなどの外国人支援団体や、外国人住民によって設立された団体等が持つノウハウや情報、ネットワークなど各団体の特色を生かしながら、地域のニーズを的確に把握した活動や、行政機関では対応し切れない部分への活動展開が期待されます。

企業・団体

- ・ 外国人の雇用や受入れを行う企業・団体は、人権の尊重、労働関係法令の遵守をはじめ、職場におけるやさしい日本語や多言語化の推進等、労働環境についての配慮が求められます。
- ・ 日本語学習の機会の提供や生活オリエンテーションの実施（生活サポートの充実）など、日常生活への適応を促進するための取組を行い、外国人労働者とその家族が安心して生活できる環境づくりに努めることが必要です。
- ・ ボランティアやNPO・NGO団体、行政等と連携し、多文化共生と国際交流の取組を充実させるとともに、外国人住民の支援活動や外国人住民が参加するイベントに積極的に協力するなど、地域の多文化共生の推進に資する活動を行うことが期待されます。

地域コミュニティ

- ・ 地域の外国人住民を孤立させることなく、地域コミュニティの一員としてお互いに協力していくという視点に立ち、住民同士の交流や助け合いを促す取組を行い、地域活動について理解を得るとともに、日ごろから関係性を築いておくことが求められます。
- ・ 地域コミュニティの活性化を図るためにも、ボランティア団体や市、事業者等との連携を図り、その地域の特徴にあった多文化共生のまちづくりを進めることが期待されます。

3 プランの進行管理

本プランに基づく施策は、毎年取組状況を確認し、関係部署や備後圏域市町との協議・意見交換を行いながら、今後の取組に反映します。

また、本プランは「福山みらい創造ビジョン」及び「びんご圏域ビジョン」等の関連計画の見直しがあった場合や、市民ニーズ、社会環境の変化等により、必要に応じて見直します。

福山市多文化共生推進プラン検討懇話会 委員名簿（敬称略・50音順）

名前	所属
石口 和寛	福山観光コンベンション協会
大小田 健	広島県地域政策局国際課
上別府 隆男（座長）	公立大学法人福山市立大学
後藤 学	福山商工会議所
田村 晃宏	公募委員
徳永 明彦	外国人留学生を支援する会
中田 基晴	公募委員
符阪 浩之	協同組合メディアバンク・エデュケーション
堀田 琢哉	福山市社会福祉協議会
宮野 宏子	びんご日本語多言語サポートセンター「びるど」 NGOふくやま日本語教室「ともだちひろば」

アドバイザー	田村 太郎	一般財団法人ダイバーシティ研究所
--------	-------	------------------



資料編

各種調査からみる状況

(1) 外国人生活環境調査

- 期間 2024年（令和6年）8月1日～9月25日
- 対象者 福山市内に住む外国人
（広島県内に住む外国人からの回答のうち、福山市内の人の回答のみ、上記期間で抽出）
- 回答方法 インターネット（Google Formによる回答）
- 調査票言語 やさしい日本語、英語、韓国語、スペイン語、中国語（簡体字、繁体字）、ベトナム語、タガログ語、インドネシア語、ネパール語、ポルトガル語、ミャンマー語、タイ語
- 実施主体 広島県地域政策局国際課
- 回答状況等 762件

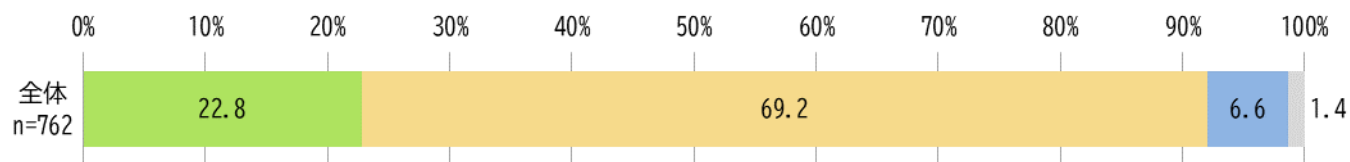
在留資格	回答者数（人）
技能実習	194
特定技能	105
留学	127
永住、永住者の配偶者	109
技能・人文知識・国際業務	47
その他（無回答含む）	180

国籍	回答者数（人）
ベトナム	148
中国	82
フィリピン	226
インドネシア	82
ネパール	64
その他（無回答含む）	160

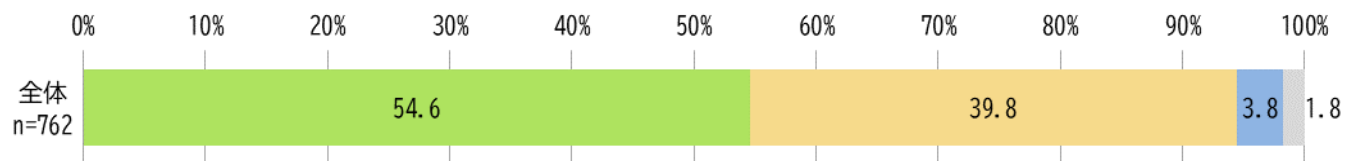
日本語習熟度について

日本語習熟度を、以下の3問について次のとおり分類したものです。

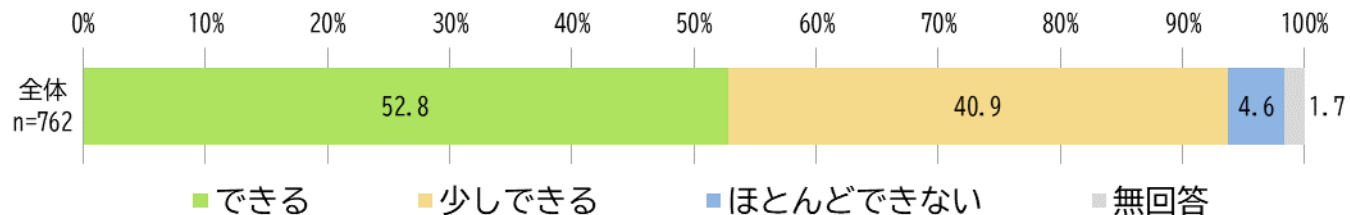
■ 問1 日本語で会話する



■ 問2 ひらがな・カタカナを読む



■ 問3 ひらがな・カタカナを書く



● 日本語習熟度別

設問	「できる」	「できない」
①日本語で会話する	「1 できる」と回答	「2 少しできる」、「3 ほとんどできない」と回答
②ひらがな・カタカナを読む	「1 できる」と回答	「2 少しできる」、「3 ほとんどできない」と回答
③ひらがな・カタカナで書く	「1 できる」と回答	「2 少しできる」、「3 ほとんどできない」と回答

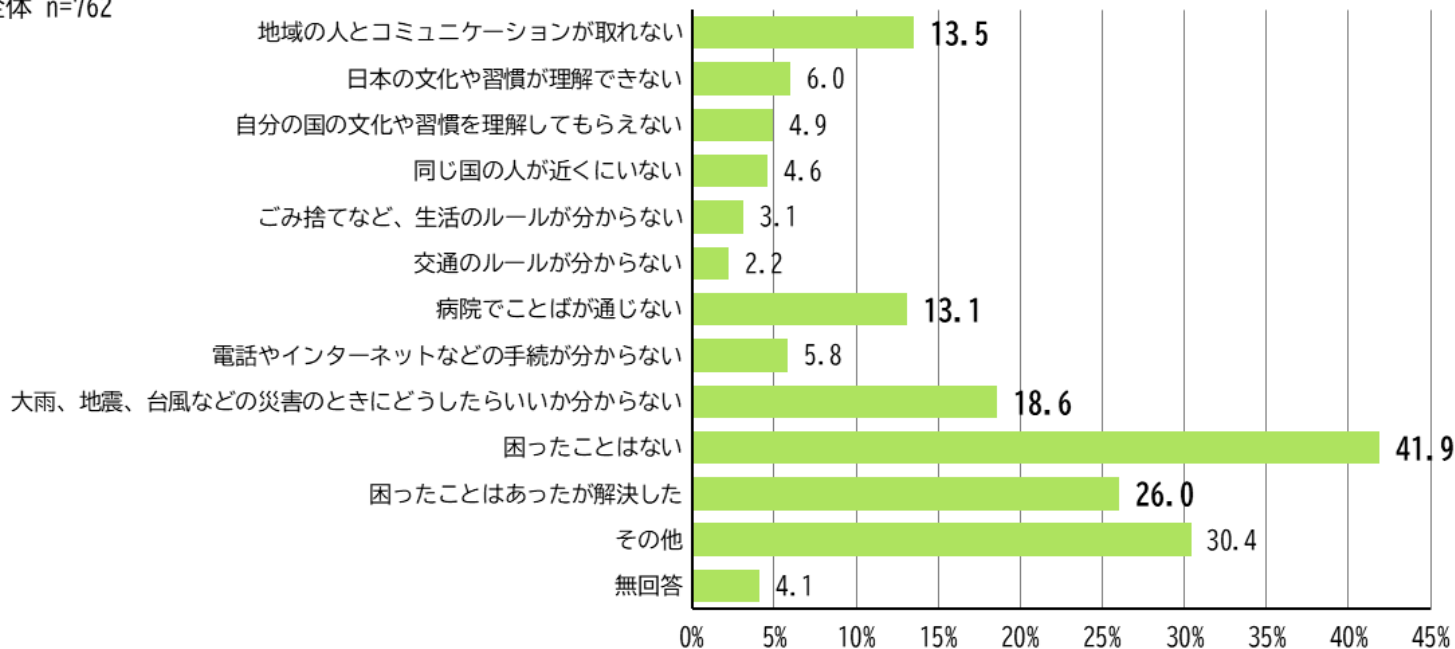
日本語の習熟度	「できる」の数
①習熟度【高】	「できる」が3個
②習熟度【中】	「できる」が2個
③習熟度【低】	「できる」が1個以下

【生活での困りごとについて】

① 最近6か月で、生活で困ったことがありましたか？（複数回答）

- 「困ったことはない」が41.9%で最も高くなっており、次いで、「困ったことはあったが解決した」が26.0%で続いています。
- 困りごとの選択肢では、「大雨、地震、台風などの災害のときにどうしたらいいか分からない」が18.6%で最も高く、「地域の人とコミュニケーションが取れない」が13.5%、「病院でことばが通じない」が13.1%で続いています。
- 日本語習熟度別でみると、「地域の人とコミュニケーションが取れない」、「大雨、地震、台風などの災害のときにどうしたらいいか分からない」と回答した割合は、習熟度【高】に比べて、習熟度【中】【低】の方が高くなっています。一方で、習熟度【高】は、「困ったことはない」の割合が高くなっています。

全体 n=762



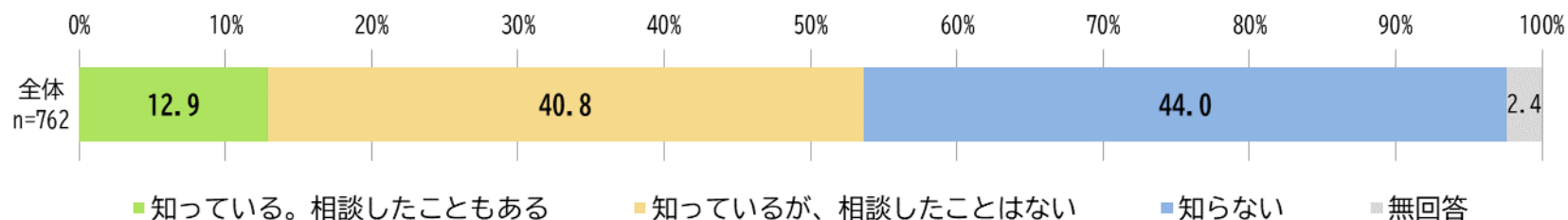
■ 日本語習熟度別

	習熟度【高】 n=164	習熟度【中】 n=232	習熟度【低】 n=359
地域の人とコミュニケーションが取れない	3.7	17.2	15.9
日本の文化や習慣が理解できない	2.4	7.3	7.0
自分の国の文化や習慣を理解してもらえない	4.3	6.5	4.2
同じ国の人が近くにいない	6.7	3.4	4.5
ゴミ捨てなど、生活のルールが分からない	1.2	3.4	3.9
交通のルールが分からない	0.6	2.6	2.8
病院でことばが通じない	5.5	12.9	16.2
電話やインターネットなどの手続きが分からない	3.7	7.8	5.6
大雨、地震、台風などの災害のときに どうしたらいいか分からない	11.0	20.7	20.6
困ったことはない	52.4	41.8	37.9
困ったことはあったが解決した	18.9	23.3	31.2
その他	20.1	31.0	34.5
無回答	3.7	3.9	3.9

【生活での困りごとについて】

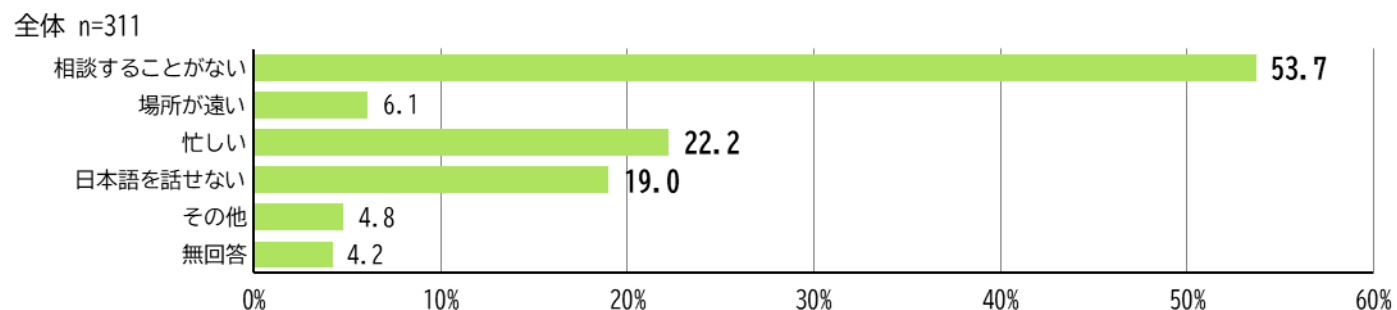
②-1 役所などに公的な相談窓口があることを知っていますか？

- 「知らない」が44.0%で最も高く、次いで「知っているが、相談したことはない」が40.8%、「知っている。相談したこともある」が12.9%が続いています。



②-2 相談したことがない理由を教えてください。（複数回答）

- 「相談することがない」が53.7%で最も高くなっています。次いで「忙しい」が22.2%、「日本語を話せない」が19.0%となっています。
- 日本語習熟度別でみると、習熟度【高】は「相談することがない」が高くなっていますが、習熟度【中】【低】では、【高】と比べると、「日本語を話せない」が高くなっています。



■日本語習熟度別

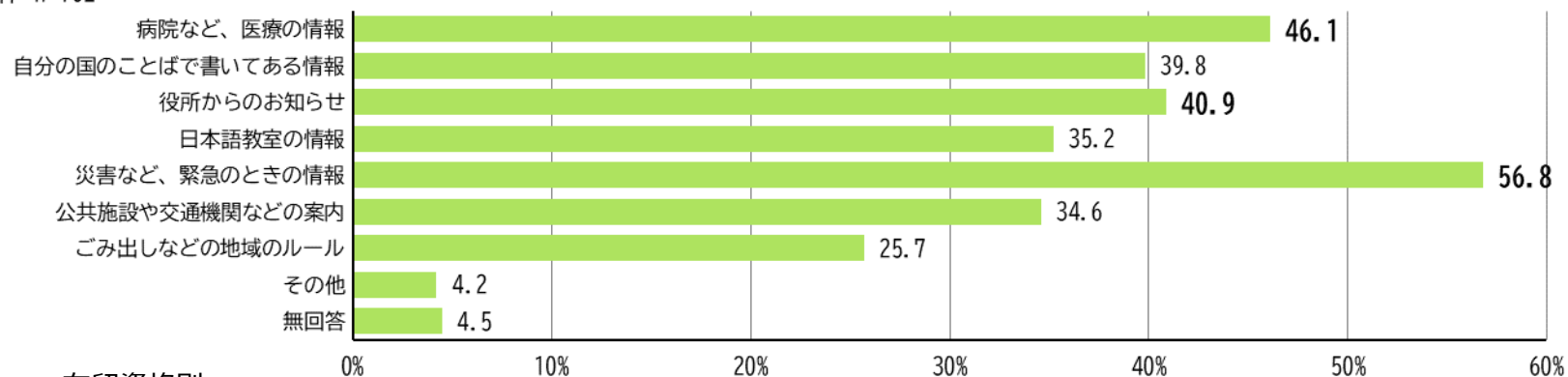
	習熟度【高】 n=75	習熟度【中】 n=71	習熟度【低】 n=164
相談することがない	64.0	57.7	47.6
場所が遠い	2.7	2.8	9.1
忙しい	21.3	29.6	19.5
日本語を話せない	2.7	18.3	26.2
その他	6.7	5.6	3.7
無回答	6.7	1.4	4.3

【生活での困りごとについて】

③ 生活する上で、どんな情報が欲しいですか？（複数回答）

- 「災害など、緊急のときの情報」が56.8%で最も高くなっています。次いで「病院など、医療の情報」が46.1%、「役所からのお知らせ」が40.9%が続いています。
- 在留資格別でみると、ほとんどの在留資格において、「災害など、緊急のときの情報」が50%を超え、高い割合になっています。また、「家族滞在」や「特定活動」では、他の在留資格に比べて、「日本語教室の情報」の割合が高くなっています。

全体 n=762



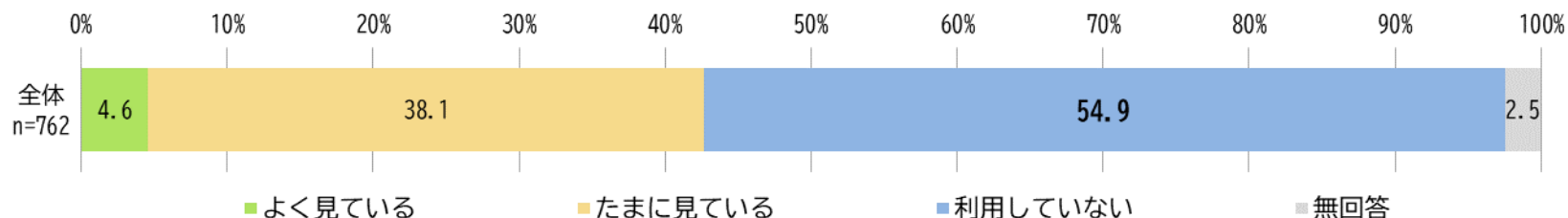
■ 在留資格別

	技能実習 n=194	特定技能 n=105	留学 n=127	永住者、 永住者の 配偶者 n=109	定住者 n=17	日本人の 配偶者等 n=42	家族滞在 n=22	技術 ・人文知識 ・国際業務 n=47	特定活動 n=10	その他 n=75
病院など、医療の情報	37.1	45.7	49.6	54.1	70.6	57.1	31.8	48.9	30.0	48.0
自分の国のことばで書いてある情報	41.8	46.7	44.9	35.8	23.5	35.7	63.6	34.0	40.0	29.3
役所からのお知らせ	36.6	35.2	44.9	41.3	41.2	50.0	22.7	61.7	30.0	46.7
日本語教室の情報	35.1	25.7	40.9	31.2	41.2	28.6	59.1	38.3	70.0	36.0
災害など、緊急のときの情報	54.1	72.4	54.3	51.4	64.7	57.1	50.0	63.8	40.0	61.3
公共施設や交通機関などの案内	28.9	47.6	38.6	28.4	35.3	40.5	50.0	38.3	40.0	28.0
ごみ出しなどの地域のルール	24.2	30.5	25.2	19.3	17.6	16.7	40.9	31.9	30.0	32.0
その他	2.6	-	3.9	13.8	11.8	-	-	6.4	-	2.7
無回答	2.1	2.9	2.4	7.3	5.9	7.1	9.1	4.3	10.0	1.3

【情報収集について】

④-1 福山市のホームページをどのくらいみていますか？

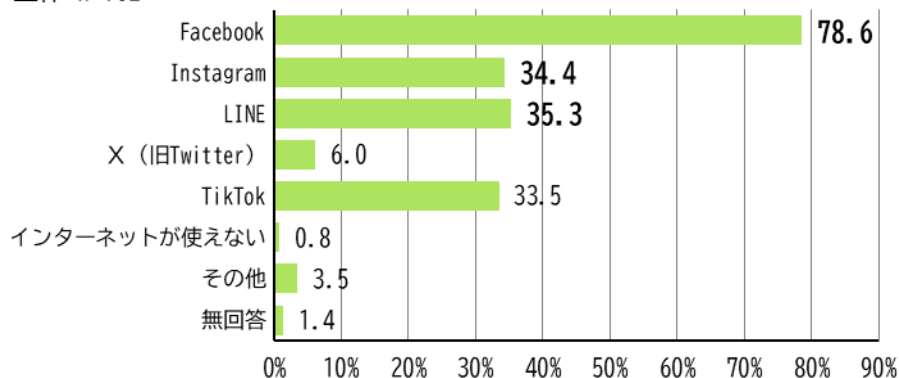
- 「利用していない」が54.9%を占めています。



④-2 よくみるSNSを選んでください。（複数回答）

- 「Facebook」が78.6%で最も高くなっています。次いで、「LINE」が35.3%、「Instagram」が34.4%となっています。
- 在留資格別でみると、いずれの在留資格においても、「Facebook」は半数以上を占めています。「永住者、永住者の配偶者」、「日本人の配偶者等」、「特定活動」では「LINE」の割合も高くなっています。

全体 n=762



■在留資格別

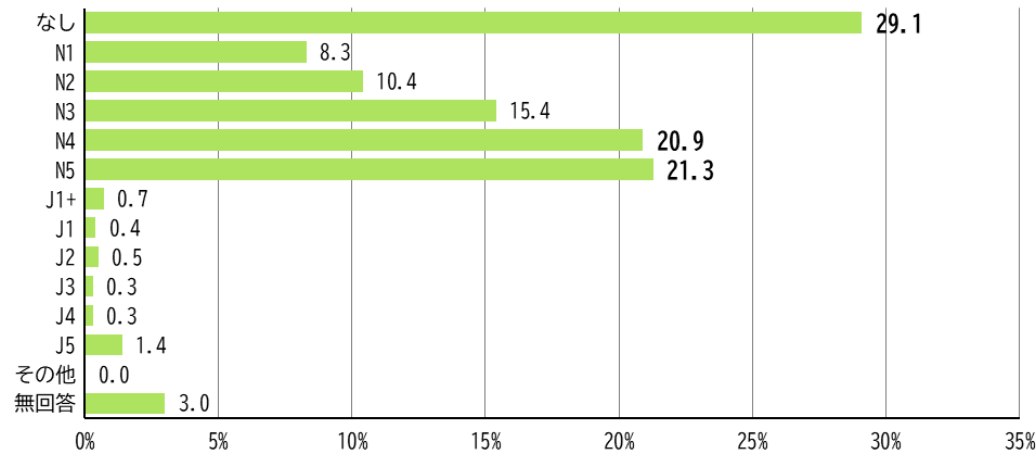
	技能実習 n=194	特定技能 n=105	留学 n=127	永住者、 永住者の 配偶者 n=109	定住者 n=17	日本人の 配偶者等 n=42	家族滞在 n=22	技術 ・人文知識 ・国際業務 n=47	特定活動 n=10	その他 n=75
Facebook	89.2	81.0	86.6	62.4	82.4	52.4	68.2	76.6	60.0	81.3
Instagram	25.8	47.6	44.9	25.7	58.8	31.0	31.8	25.5	80.0	32.0
LINE	15.5	41.0	28.3	60.6	29.4	59.5	40.9	51.1	70.0	28.0
X(旧Twitter)	2.1	8.6	4.7	10.1	23.5	4.8	4.5	6.4	20.0	4.0
TikTok	35.6	38.1	40.9	26.6	35.3	26.2	31.8	38.3	20.0	25.3
インターネットが使えない	-	-	0.8	1.8	-	-	-	4.3	-	-
その他	0.5	1.0	0.8	11.9	-	2.4	-	2.1	-	12.0
無回答	1.0	-	2.4	2.8	-	4.8	-	-	-	-

【日本語について】

⑤ あなたは日本語の資格を持っていますか？（複数回答）

- 「なし」が29.1%で最も高くなっています。次いで「N5」が21.3%、「N4」が20.9%が続いています。
- 在留資格別でみると、「技能実習」「特定技能」「留学」「技術・人文知識・国際業務」などで資格を持っている人が多くなっています。

全体 n=762



■在留資格別

	技能実習 n=194	特定技能 n=105	留学 n=127	永住者、 永住者の 配偶者 n=109	定住者 n=17	日本人の 配偶者等 n=42	家族滞在 n=22	技術 ・人文知識 ・国際業務 n=47	特定活動 n=10	その他 n=75
なし	23.7	19.0	16.5	47.7	47.1	47.6	45.5	21.3	50.0	36.0
N1	1.5	3.8	2.4	21.1	5.9	11.9	4.5	12.8	-	20.0
N2	3.1	9.5	9.4	12.8	11.8	11.9	4.5	34.0	20.0	14.7
N3	10.8	21.0	27.6	9.2	5.9	9.5	22.7	14.9	10.0	10.7
N4	25.8	40.0	26.0	4.6	17.6	16.7	9.1	12.8	-	12.0
N5	37.1	17.1	26.8	3.7	17.6	11.9	13.6	12.8	30.0	17.3
J1+	1.0	-	-	2.8	-	-	-	-	-	-
J1	0.5	-	0.8	0.9	-	-	-	-	-	-
J2	-	-	-	0.9	-	4.8	-	2.1	-	-
J3	-	-	-	0.9	-	-	-	-	-	1.3
J4	0.5	-	-	0.9	-	-	-	-	-	-
J5	1.5	-	2.4	1.8	-	-	-	4.3	-	1.3
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	2.6	2.9	0.8	5.5	5.9	4.8	-	-	-	2.7

日本語試験について…

●日本語能力試験（JLPT）

日本語を母語としない人の日本語の能力を評価する試験 N1～N5まであり、N1が最も高いレベル

●ビジネス日本語能力テスト（BJT）

ビジネスシーンにおける実践的な日本語能力を測定する試験 スコア制で評価され、J1+～J5まであり、J1+が最も高いレベル

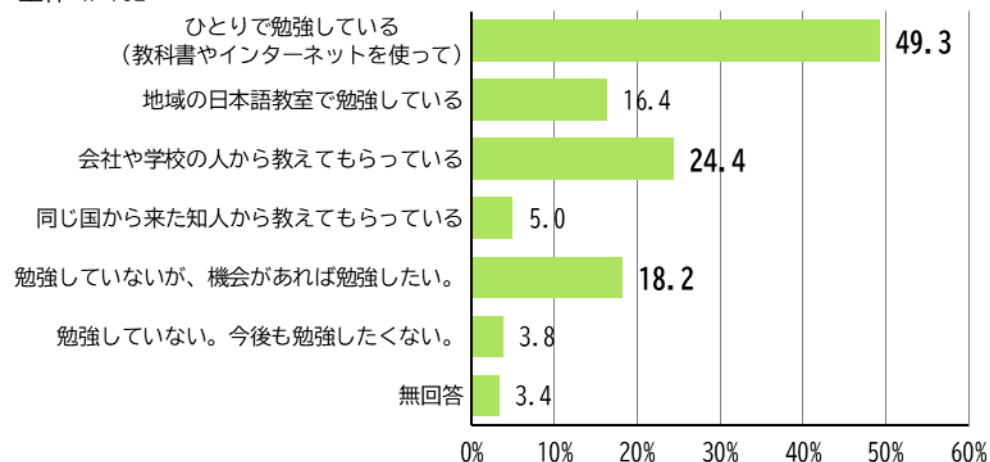
その他にも試験はいくつかあり、目的や用途に応じて、受験することができます。

【日本語について】

⑥ 今、日本語を勉強していますか？（複数回答）

- 「ひとりで勉強している(教科書やインターネットを使って)」が49.3%で最も高く、「会社や学校の人から教えてもらっている」が24.4%、「勉強していないが、機会があれば勉強したい。」が18.2%となっています。
- 日本語習熟度別にみると、習熟度【高】【中】は、「ひとりで勉強している(教科書やインターネットを使って)」の割合が高くなっています。また、習熟度【低】は、習熟度【高】【中】に比べて、「勉強していないが、機会があれば勉強したい。」が27.3%と高くなっています。

全体 n=762



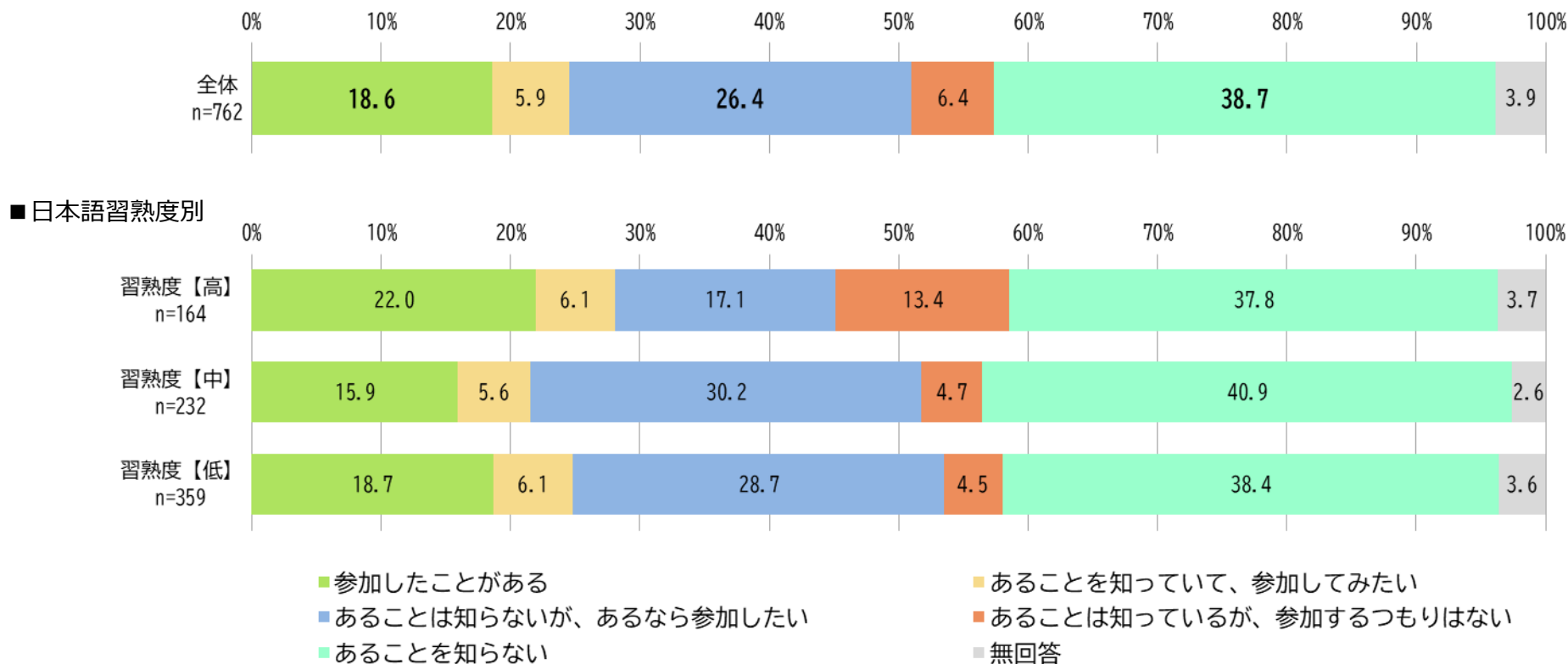
■ 日本語習熟度別

	習熟度【高】 n=164	習熟度【中】 n=232	習熟度【低】 n=359
ひとりで勉強している(教科書やインターネットを使って)	54.9	52.6	45.4
地域日本語教室で勉強している	14.6	28.0	10.0
会社や学校の人から教えてもらっている	20.1	25.0	26.5
同じ国から来た知人から教えてもらっている	1.8	3.4	7.5
勉強していないが、機会があれば勉強したい。	12.2	9.1	27.3
勉強していない。今後も勉強したくない。	6.7	2.2	3.6
無回答	6.1	2.2	1.4

【日本語について】

⑦ 市役所や交流館などでしている日本語教室に参加したことがありますか？

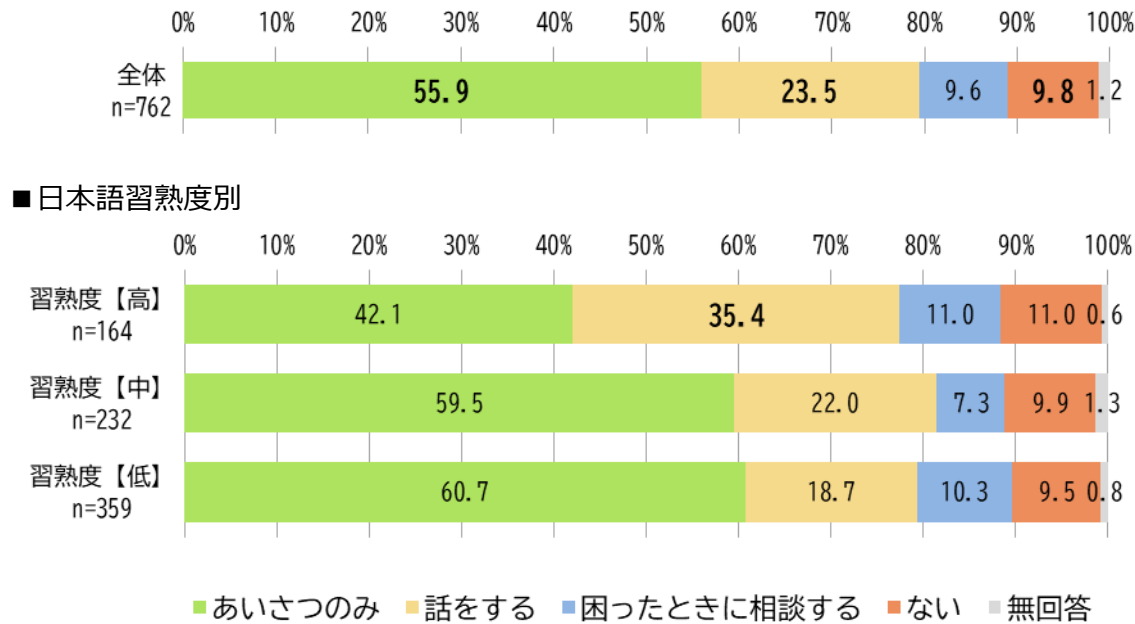
- 「あることを知らない」が38.7%で最も高くなっています。次いで「あることは知らないが、あるなら参加したい」が26.4%、「参加したことがある」が18.6%が続いています。
- 日本語習熟度別にみると、習熟度【中】【低】は、【高】に比べて、「あることは知らないが、あるなら参加したい」の割合が高くなっています。



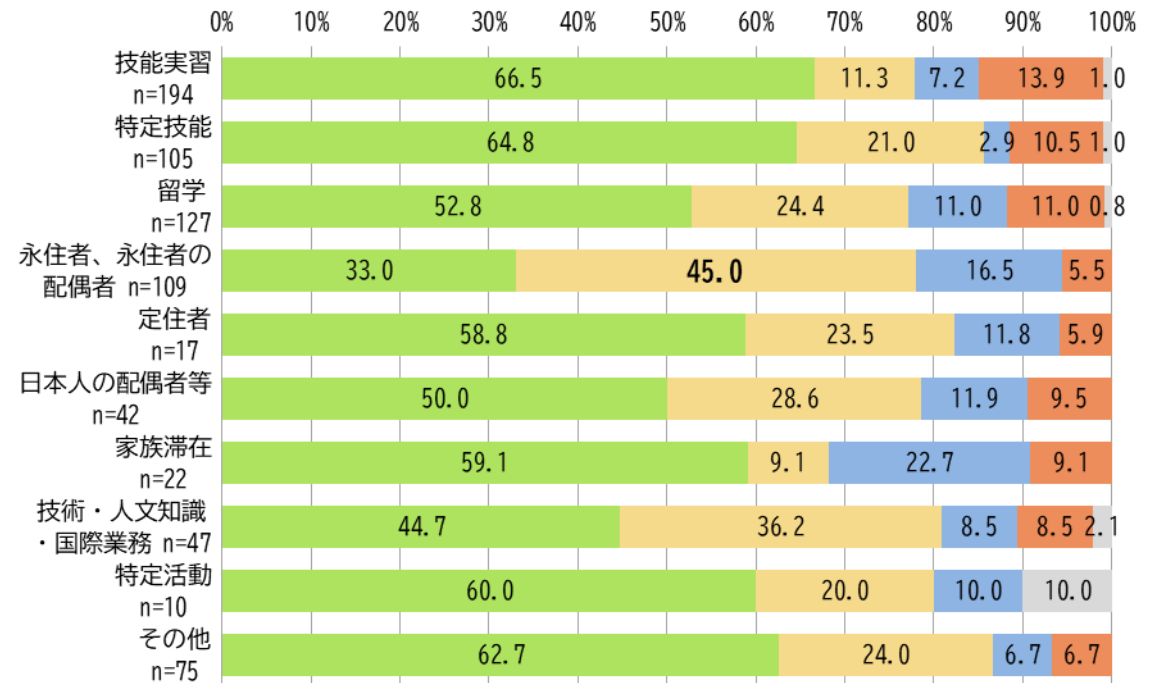
【地域等との交流について】

⑧ 近所の日本人と話をすることがありますか？

- 「あいさつのみ」が55.9%で最も高く、「話をする」が23.5%、「ない」が9.8%となっています。
- 在留資格別では「永住者、永住者の配偶者」で「話をする」が45.0%で最も高くなっています。
- 日本語習熟度別でみると、習熟度【高】は、【中】【低】と比べると、「話をする」が35.4%と高くなっています。一方で、習熟度【中】【低】は、「あいさつのみ」の割合が高くなっています。



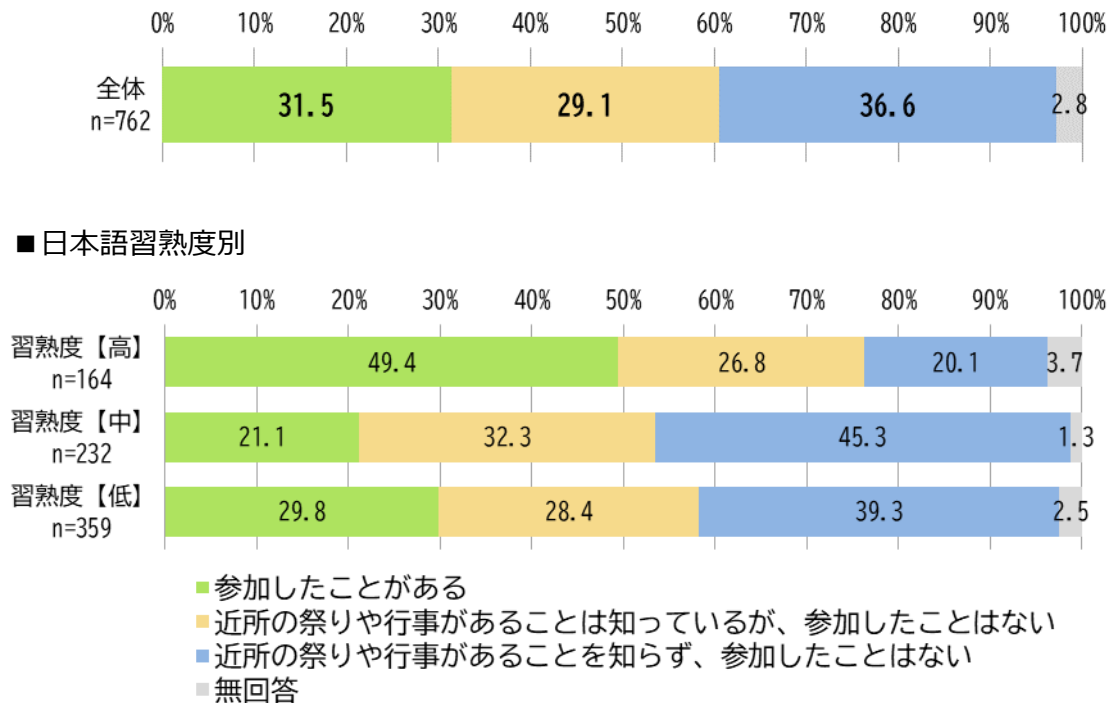
■在留資格別



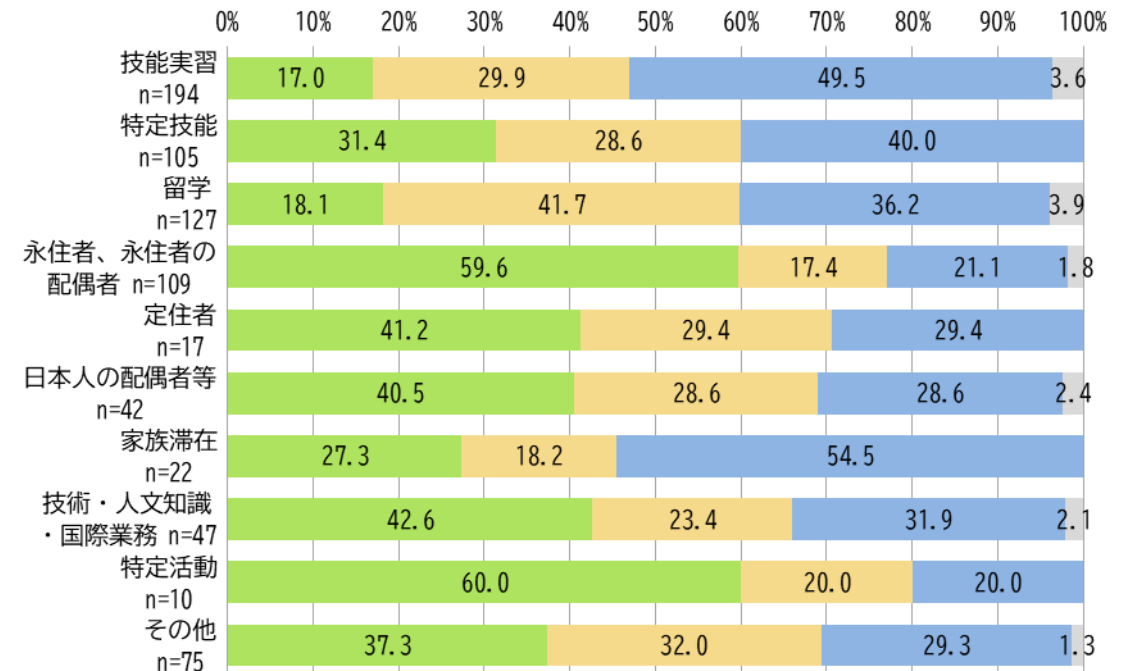
【地域等との交流について】

⑨ 近所の祭りや行事に参加したことがありますか？

- 「近所の祭りや行事があることを知らず、参加したことはない」が36.6%で最も高く、次いで「参加したことがある」が31.5%、「近所の祭りや行事があることは知っているが、参加したことはない」が29.1%で続いています。
- 在留資格別でみると、「参加したことがある」が、「技能実習」「留学」「家族滞在」で低くなっています。
- 日本語習熟度別でみると、習熟度【高】で「参加したことがある」の割合が高くなっています。



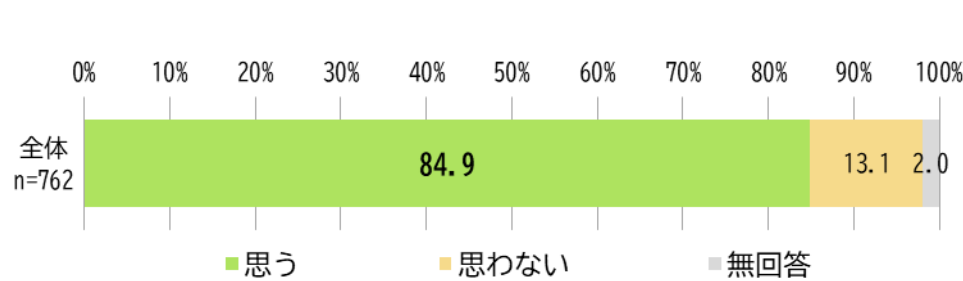
■在留資格別



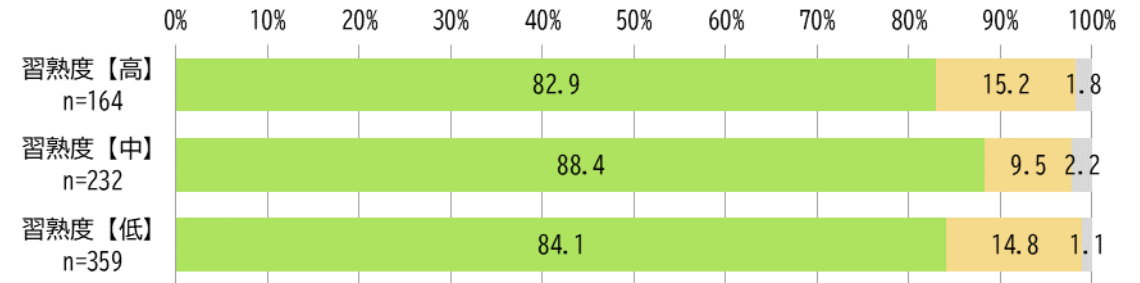
【地域等との交流について】

⑩-1 近所の日本人と仲良くなりたいと思いますか？

- 「思う」が84.9%を占めており、日本語の習熟度に関わらず、仲良くなりたいと思う割合が高くなっています。

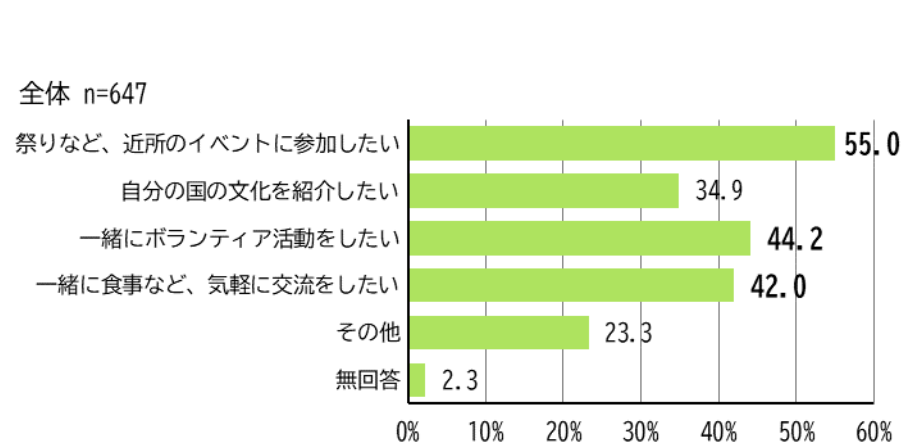


■日本語習熟度別



⑩-2 近所の日本人と仲良くなったなら、何がしたいですか？（複数回答）

- 「祭りなど、近所のイベントに参加したい」が55.0%で最も高くなっています。次いで「一緒にボランティア活動をしたい」が44.2%、「一緒に食事など、気軽に交流をしたい」が42.0%で続いています。



■在留資格別

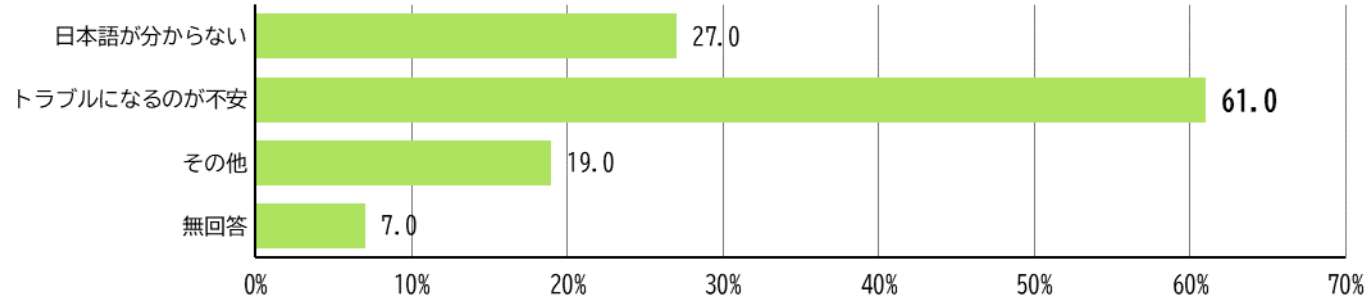
	技能実習 n=170	特定技能 n=91	留学 n=108	永住者、 永住者の 配偶者 n=83	定住者 n=15	日本人の 配偶者等 n=33	家族滞在 n=19	技術 ・人文知識 ・国際業務 n=38	特定活動 n=9	その他 n=73
祭りなど、近所の イベントに参加したい	47.6	56.0	58.3	67.5	46.7	63.6	42.1	78.9	77.8	42.5
自分の国の文化を紹介したい	30.6	41.8	50.9	25.3	13.3	15.2	42.1	44.7	55.6	28.8
一緒にボランティア 活動をしたい	48.8	39.6	37.0	34.9	60.0	30.3	26.3	55.3	55.6	60.3
一緒に食事など、 気軽に交流をしたい	31.8	34.1	50.0	49.4	33.3	45.5	68.4	63.2	66.7	37.0
その他	14.1	27.5	25.9	30.1	20.0	24.2	5.3	15.8	55.6	31.5
無回答	4.1	1.1	-	3.6	-	6.1	5.3	-	-	-

【地域等との交流について】

⑩-3 近所の日本人と仲良くなりたいと思わない理由は？（複数回答）

- ・「トラブルになるのが不安」が61.0%を占めています。
- ・日本語習熟度別にみると、習熟度【中】で「トラブルになるのが不安」が高く、習熟度【低】で「日本語が分からない」が高くなっています。

全体 n=100



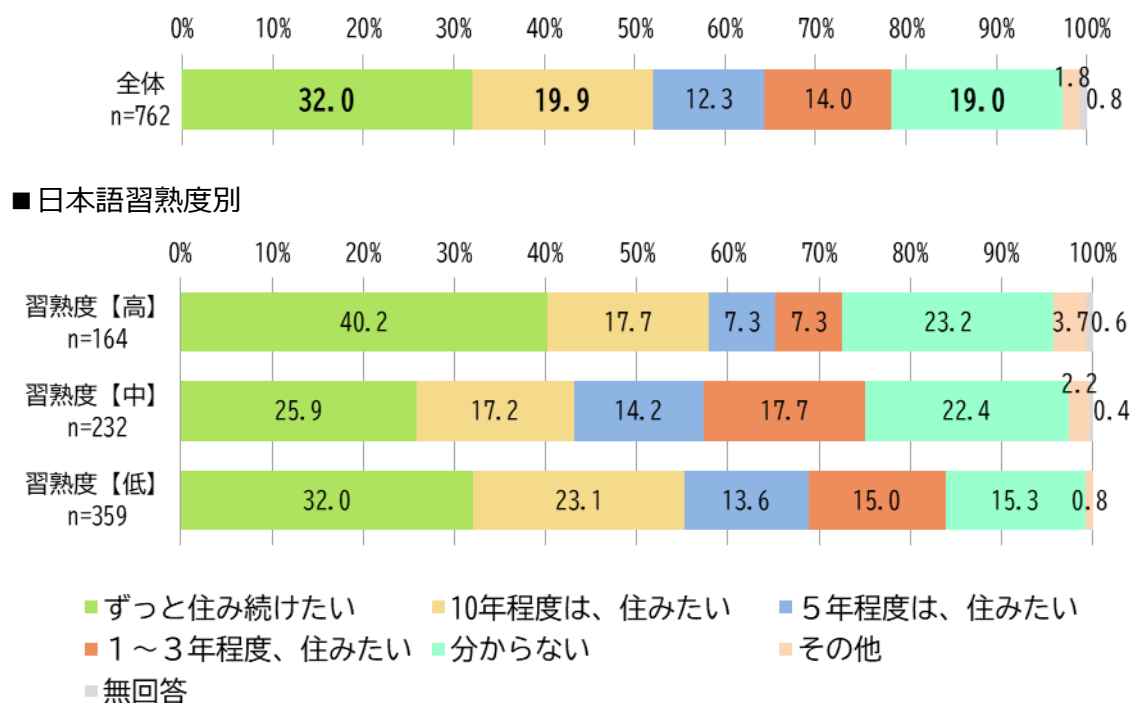
■ 日本語習熟度別

	習熟度【高】 n=25	習熟度【中】 n=22	習熟度【低】 n=53
日本語が分からない	4.0	9.1	45.3
トラブルになるのが不安	44.0	86.4	58.5
その他	44.0	18.2	7.5
無回答	12.0	-	7.5

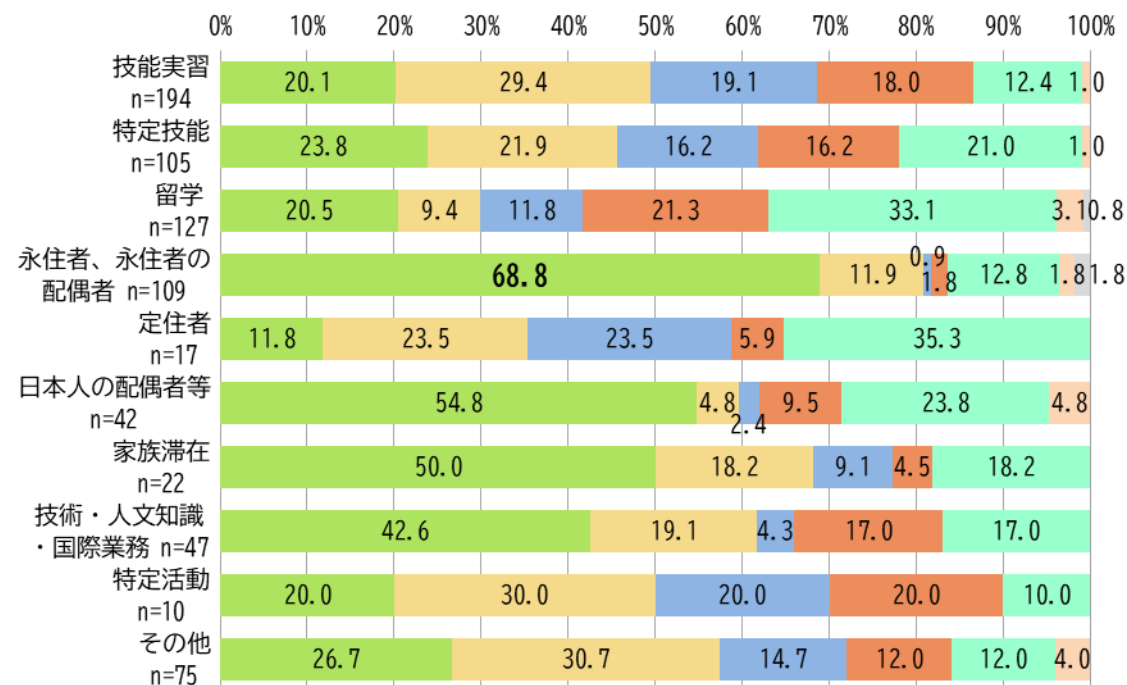
【今後の滞在意向について】

⑪ 福山市に住み続けたいと思いますか？（複数回答）

- 「ずっと住み続けたい」が32.0%で最も高くなっています。次いで「10年程度は、住みたい」が19.9%、「分からない」が19.0%で続いています。
- 在留資格別でみると、「永住者、永住者の配偶者」で「ずっと住み続けたい」が68.8%と高く、「留学」や「定住者」で「分からない」の割合が、他の資格に比べ、高くなっています。
- 日本語習熟度別でみると、習熟度【中】で「ずっと住み続けたい」が低くなっています。



■ 在留資格別

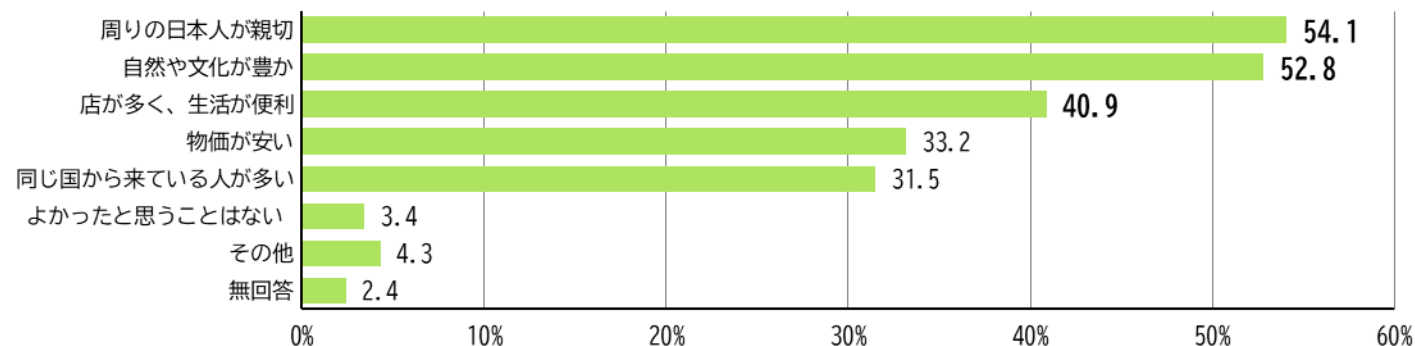


【今後の滞在意向について】

⑫ 福山市に住んで、よかったと思うことはありますか？（複数回答）

- 「周りの日本人が親切」が54.1%で最も高くなっています。次いで「自然や文化が豊か」が52.8%、「店が多く、生活が便利」が40.9%で続いています。
- 在留資格別では、「特定技能」で「同じ国から来ている人が多い」が49.5%と、他の資格に比べ、高くなっています。
- 日本語習熟度別にみると、習熟度【低】で「周りの日本人が親切」が62.4%と高くなっています。

全体 n=762



■ 在留資格別

	技能実習 n=194	特定技能 n=105	留学 n=127	永住者、 永住者の 配偶者等 n=109	定住者 n=17	日本人の 配偶者等 n=42	家族滞在 n=22	技術 ・人文知識 ・国際業務 n=47	特定活動 n=10	その他 n=75
周りの日本人が親切	49.5	55.2	37.0	67.0	64.7	57.1	68.2	42.6	70.0	76.0
自然や文化が豊か	47.4	47.6	50.4	57.8	47.1	59.5	72.7	59.6	40.0	64.0
店が多く、生活が便利	42.3	52.4	36.2	42.2	29.4	42.9	40.9	36.2	60.0	34.7
物価が安い	30.4	37.1	33.1	35.8	35.3	28.6	31.8	42.6	40.0	32.0
同じ国から来ている人が多い	38.1	49.5	29.9	22.0	17.6	21.4	18.2	19.1	20.0	32.0
よかったと思うことはない	2.6	1.0	3.9	3.7	5.9	4.8	-	8.5	10.0	4.0
その他	4.1	2.9	3.1	4.6	5.9	4.8	9.1	6.4	-	4.0
無回答	0.5	1.9	3.9	3.7	5.9	-	-	-	-	1.3

■ 日本語習熟度別

	習熟度【高】 n=164	習熟度【中】 n=232	習熟度【低】 n=359
周りの日本人が親切	56.1	40.5	62.4
自然や文化が豊か	58.5	47.4	54.0
店が多く、生活が便利	42.7	47.4	36.5
物価が安い	37.2	37.9	29.0
同じ国から来ている人が多い	20.1	36.6	34.0
よかったと思うことはない	5.5	3.0	2.8
その他	6.7	5.2	2.8
無回答	2.4	3.0	0.8

(2) ヒアリング調査

- 期間 2024年（令和6年）8月～10月
- 人数等 8団体、68人（日本人8人、外国人60人）
- 対象者 外国人材を雇用する企業、外国人材受入れに関わる機関
外国人留学生を受入れる学校、地域日本語教室
外国人住民（永住者、配偶者、留学生、技能実習生等）
- 実施方法 個別又はグループごとに、訪問又は来庁してもらい、課題やニーズ等の聞き取りを実施



① 日本語について

- ・ 育成就労制度に向けたステップアップのための日本語教育への支援体制がない。（企業）
- ・ 「やさしい日本語」への理解不足。（企業）
- ・ 学習支援者の高齢化や人材不足。（日本語教室）
- ・ 日本語教室の時間が合わず、参加できない。（外国人住民）
- ・ オンラインで勉強するよりも、対面で学習する方が、やる気が出て継続できる。（外国人住民）
- ・ 仕事の日本語はできるが、日常生活上の日本語ができない人もいる。配偶者や子どもも日本語が話せない。（外国人住民）

【行政に求めること】

- ・ 今後、特定技能2号をめざす人が増えていくと想定されることや、育成就労制度への法改正によりステップアップのための日本語能力が必要になってくるため、日本語教育へのサポートをしてほしい。（企業）
- ・ 学習支援者の育成・スキルアップの講習をしてほしい。（日本語教室）
- ・ 支援者同士の情報共有の場を設けてほしい。（日本語教室）
- ・ 運営資金（事務費、教材等）の補助をしてほしい。（日本語教室）
- ・ 日本語教室を子育てしている人も参加しやすい時間帯に開催してほしい。（外国人住民）

② 地域等との交流について

- 交流イベントや日本語教室等の情報が十分周知されていない。（企業、外国人住民）
- 地域住民と交流できる機会が少ない。（企業、外国人住民）
- 外国人だからと避けて、挨拶してもらえると、受け入れてもらったという安心感がある。（外国人住民）
- 地域に自分の国を紹介できる機会があるといい。（外国人住民）
- イベントに行政の人に関わってもらえると、認めてもらった気持ちになる。（外国人住民）

【行政に求めること】

- 地域社会とのつながりを持てる交流の場を提供してほしい。（団体）
- グローバル週間など、福山で暮らす外国人住民の国について紹介する機会を作してほしい。（外国人住民）
- 特技や趣味で活躍できる場を作してほしい。（外国人住民）
- 外国人住民主催のイベントに、行政の人にも参加・サポートしてほしい。（外国人住民）

③ 就労・定着支援について

- ・ 監理団体へ支払う経費負担が大きい。（企業）
- ・ 学校を卒業後、関東地方への転出意欲が高い。（日本語学校）
- ・ 特定技能を希望する技能実習生が多いが、福山市内に受入企業が少ない。（監理団体）
- ・ インターンシップの受入企業が少ない。（日本語学校）
- ・ 転職や就職面接等について分からないことが多い。（外国人住民）
- ・ 外国人が働ける職場を見つけることが難しい。（外国人留学生）



【行政に求めること】

- ・ 補助金等による外国人材受入れのサポートをしてほしい。（企業）
- ・ 外国人材を受け入れてくれる企業を増やしてほしい。（日本語学校）
- ・ インターンシップができる企業、業種を増やしてほしい。（日本語学校）
- ・ アルバイトに影響しない範囲で参加できるインターンシップがあれば参加したい。（外国人留学生）
- ・ 外国人留学生を採用する企業への補助金等の助成制度があるといい。（日本語学校）
- ・ 従業員向けの「やさしい日本語」についての出前講座等をしてほしい。（企業）

④ 子育て・こどもの教育について

- 学校のお便りが読めずに困っているお母さんがたくさんいる。（外国人住民）
- 日本の学校のルールが難しい。（外国人住民）
- 日本語が分からず、PTAに参加できない。（外国人住民）
- こどもの宿題のチェックを親がしないといけませんが、日本語が分からず、チェックできない。（外国人住民）
- 親が外国人という理由で、差別やいじめがないか心配する人もいる。（外国人住民）

【行政に求めること】

- こどもの健康診断や学校からの手紙など、どの部分が重要で大切なことなのかを教えてほしい。（外国人住民）
- 就学や進学（受験）等のガイダンスをしてほしい。（外国人住民）

⑤ 生活に関する困りごとについて

- 外国人であることが理由で、貸主に賃貸物件への入居を断られるケースがある。（企業）
- 結婚や出産について、どこに相談すればいいのかわからない。（外国人住民）
- 医療機関や行政窓口での説明や書類が日本語ばかりで理解できない。（外国人住民）
- Facebookの利用率は高いが、技能実習生のほとんどはSIMのない携帯電話を使用しているので、Wi-Fi環境下でないとSNSが利用できない。（監理団体）
- 日本語教室で生活に関する相談を受けることがあるが、どこの窓口へつなげばいいか判断に時間がかかる。（日本語教室）
- 税金や保険料が高い。（外国人留学生）

【行政に求めること】

- 住宅補助等、外国人住民が活用できる制度があればいい。（企業）
- 交通ルールやごみの分別等、日常生活に関するマナーや習慣等をガイドブックや動画にしてほしい。（企業、監理団体）
- 対応言語を増やすなど、外国人相談窓口を充実させてほしい。（企業、外国人留学生）
- バスなどの交通手段を充実させてほしい。（企業、外国人住民）
- 防災教室を開催してほしい。（監理団体）
- 外国人住民の相談に適正に対応できるよう、相談先の一覧表を作成してほしい。（日本語教室）

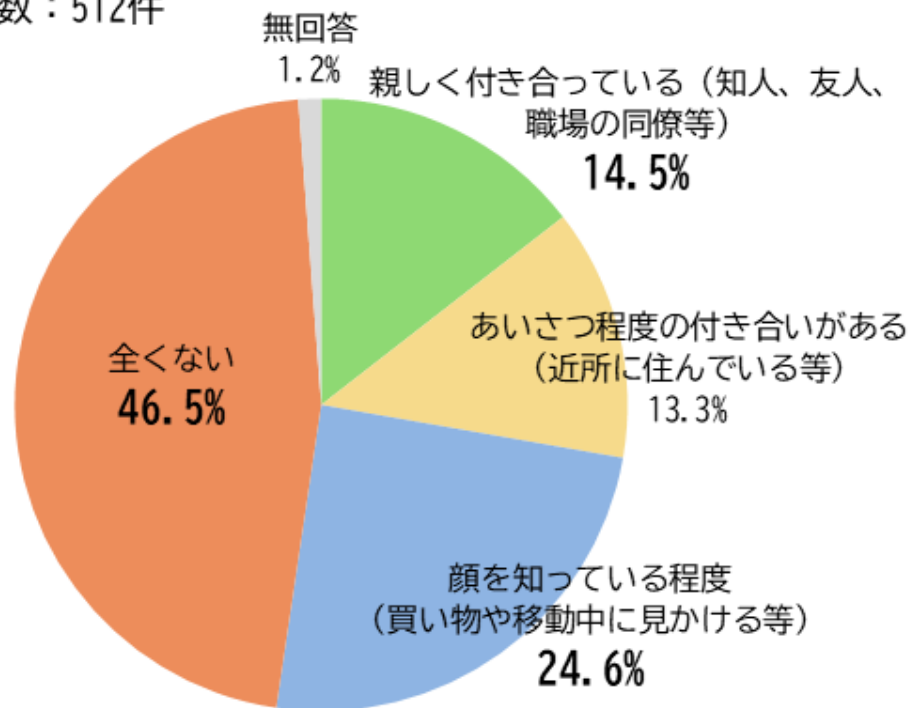
（３）2021年度（令和３年度）第４回福山市市政モニター調査

- 期間 2022年（令和4年）2月14日～2月28日
- 対象者 16歳以上の福山市民又は市外在住で福山市政に関心のある人で福山市市政モニターに登録した人
- 回答方法 インターネット（福山市電子申請サービス）及び郵送
- 実施主体 福山市
- 回答状況等 762人（インターネット回答者488人、郵送回答者274人）
- 調査項目 「多文化共生のまちづくり」について

①- 1 国籍や言語が異なる人と、日頃から付き合いがありますか？

- 「全くない」が46.5%で最も高く、次いで「顔を知っている程度（買い物や移動中に見かける等）」が24.6%、「親しく付き合っている（知人、友人、職場の同僚等）」が14.5%で続いています。
- 年代別でみると、どの年代においても「全くない」の割合が高くなっています。「10歳代」では、「顔を知っている程度（買い物や移動中に見かける等）」が37.9%と高くなっています。

回答者数：512件



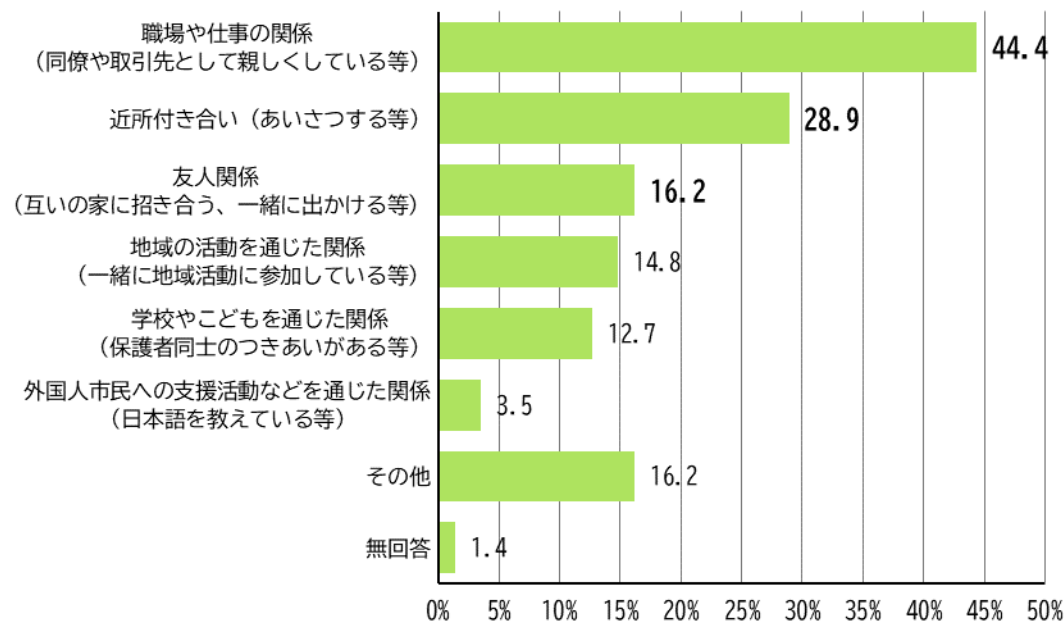
■年代別

	全体	年代層の項目						
		10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
親しく付き合っている（知人、友人、職場の同僚等）	14.5	6.9	17.9	20.0	16.5	21.4	10.5	5.3
あいさつ程度の付き合いがある（近所に住んでいる等）	13.3	-	9.0	15.6	8.2	11.4	15.8	22.1
顔を知っている程度（買い物や移動中に見かける等）	24.6	37.9	25.4	22.2	34.1	18.6	26.3	16.8
全くない	46.5	55.2	47.8	42.2	41.2	47.1	43.4	53.7
不明・無回答	1.2	-	-	-	-	1.4	3.9	2.1

①-2 どのような場面で付き合いがありますか？

- 「職場や仕事の関係（同僚や取引先として親しくしている等）」が44.4%で最も高くなっています。次いで「近所付き合い（あいさつする等）」が28.9%、「友人関係（互いの家に招き合う、一緒に出かける等）」が16.2%で続いています。
- 年代別でみると、「10歳代」から「50歳代」では「職場や仕事の関係（同僚や取引先として親しくしている）」の割合が高くなっています。「10歳代」では他の年代に比べて、「学校や子どもを通じた関係（保護者同士のつきあいがある等）」の割合が高く、「60歳代」「70歳以上」では「近所付き合い（あいさつする等）」の割合が高くなっています。

回答者数：142件



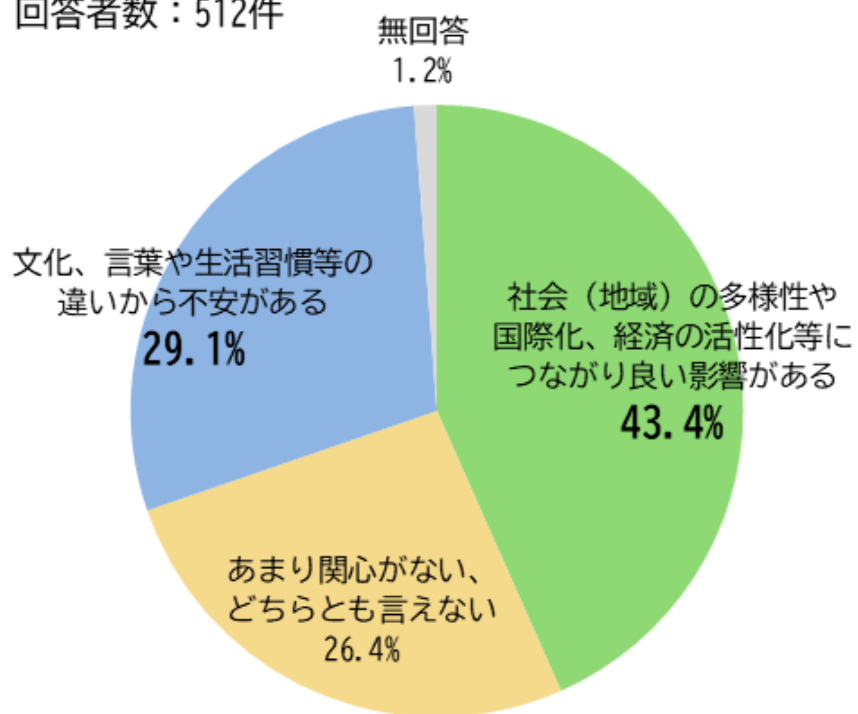
■年代別

	全体	年代層の項目						
		10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
職場や仕事の関係 (同僚や取引先として親しくしている等)	44.4	50.0	50.0	56.3	57.1	60.9	30.0	11.5
近所付き合い(あいさつする等)	28.9	-	11.1	15.6	14.3	26.1	50.0	57.7
友人関係 (互いの家に招き合う、一緒に出かける等)	16.2	100.0	27.8	3.1	23.8	17.4	15.0	11.5
地域の活動を通じた関係 (一緒に地域活動に参加している等)	14.8	-	-	3.1	19.0	17.4	15.0	34.6
学校や子どもを通じた関係 (保護者同士のつきあいがある等)	12.7	50.0	11.1	18.8	33.3	4.3	5.0	-
外国人市民への支援活動などを通じた関係 (日本語を教えている等)	3.5	-	11.1	3.1	4.8	4.3	-	-
その他	16.2	50.0	27.8	9.4	23.8	4.3	10.0	23.1
不明・無回答	1.4	-	-	-	-	-	-	7.7

② 福山市内に外国人市民が増えることについて、どのように思いますか？

- 「社会（地域）の多様性や国際化、経済の活性化等につながり良い影響がある」が43.4%で最も高く、次いで「文化、言葉や生活習慣等の違いから不安がある」が29.1%となっています。
- 年代別でみると、「60歳代」では「文化、言葉や生活習慣等の違いから不安がある」の割合が高くなっています。その他の年齢については、「社会（地域）の多様性や国際化、経済の活性化等につながり良い影響がある」の割合が高くなっています。

回答者数：512件



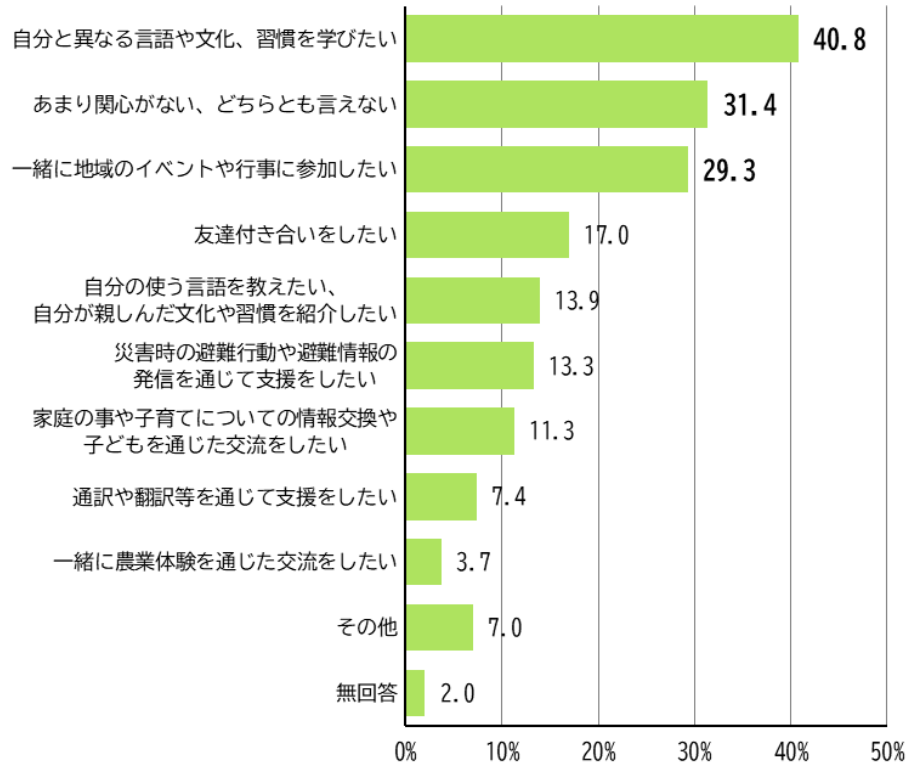
■年代別

	全体	年代層の項目						
		10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
社会（地域）の多様性や国際化、経済の活性化等につながり良い影響がある	43.4	51.7	44.8	47.8	41.2	44.3	31.6	46.3
あまり関心がない、どちらとも言えない	26.4	27.6	23.9	31.1	23.5	27.1	21.1	29.5
文化、言葉や生活習慣等の違いから不安がある	29.1	20.7	31.3	20.0	35.3	28.6	42.1	23.2
不明・無回答	1.2	-	-	1.1	-	-	5.3	1.1

③ 国籍や言語が異なる人と関わりたいと思いますか？ その場合、具体的にどのように関わりたいと思いますか？（複数回答）

- 「自分と異なる言語や文化、習慣を学びたい」が40.8%で最も高くなっています。次いで「あまり関心がない、どちらとも言えない」が31.4%、「一緒に地域のイベントや行事に参加したい」が29.3%で続いています。
- 年代別でみると、「10歳代」から「40歳代」では「自分と異なる言語や文化、習慣を学びたい」の割合が高く、「60歳代」「70歳代」では「あまり関心がない、どちらとも言えない」の割合が高くなっています。

回答者数：512件



■年代別

	全体	年代層の項目						
		10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
自分と異なる言語や文化、習慣を学びたい	40.8	41.4	50.7	41.1	52.9	31.4	38.2	31.6
あまり関心がない、どちらとも言えない	31.4	20.7	22.4	26.7	24.7	35.7	42.1	40.0
一緒に地域のイベントや行事に参加したい	29.3	27.6	23.9	30.0	35.3	28.6	26.3	30.5
友達付き合いをしたい	17.0	34.5	34.3	16.7	23.5	11.4	1.3	10.5
自分の使う言語を教えたい、自分が親しんだ文化や習慣を紹介したい	13.9	24.1	22.4	11.1	9.4	12.9	9.2	15.8
災害時の避難行動や避難情報の発信を通じて支援をしたい	13.3	6.9	11.9	7.8	10.6	24.3	11.8	16.8
家庭の事や子育てについての情報交換や子どもを通じた交流をしたい	11.3	6.9	16.4	21.1	15.3	10.0	3.9	3.2
通訳や翻訳等を通じて支援をしたい	7.4	6.9	13.4	8.9	9.4	8.6	3.9	2.1
一緒に農業体験を通じた交流をしたい	3.7	3.4	4.5	4.4	1.2	1.4	5.3	5.3
その他	7.0	-	4.5	6.7	7.1	10.0	9.2	7.4
不明・無回答	2.0	-	-	-	-	-	2.6	8.4

④ 多文化共生社会を実現するために福山市は何をするべきだと思いますか？

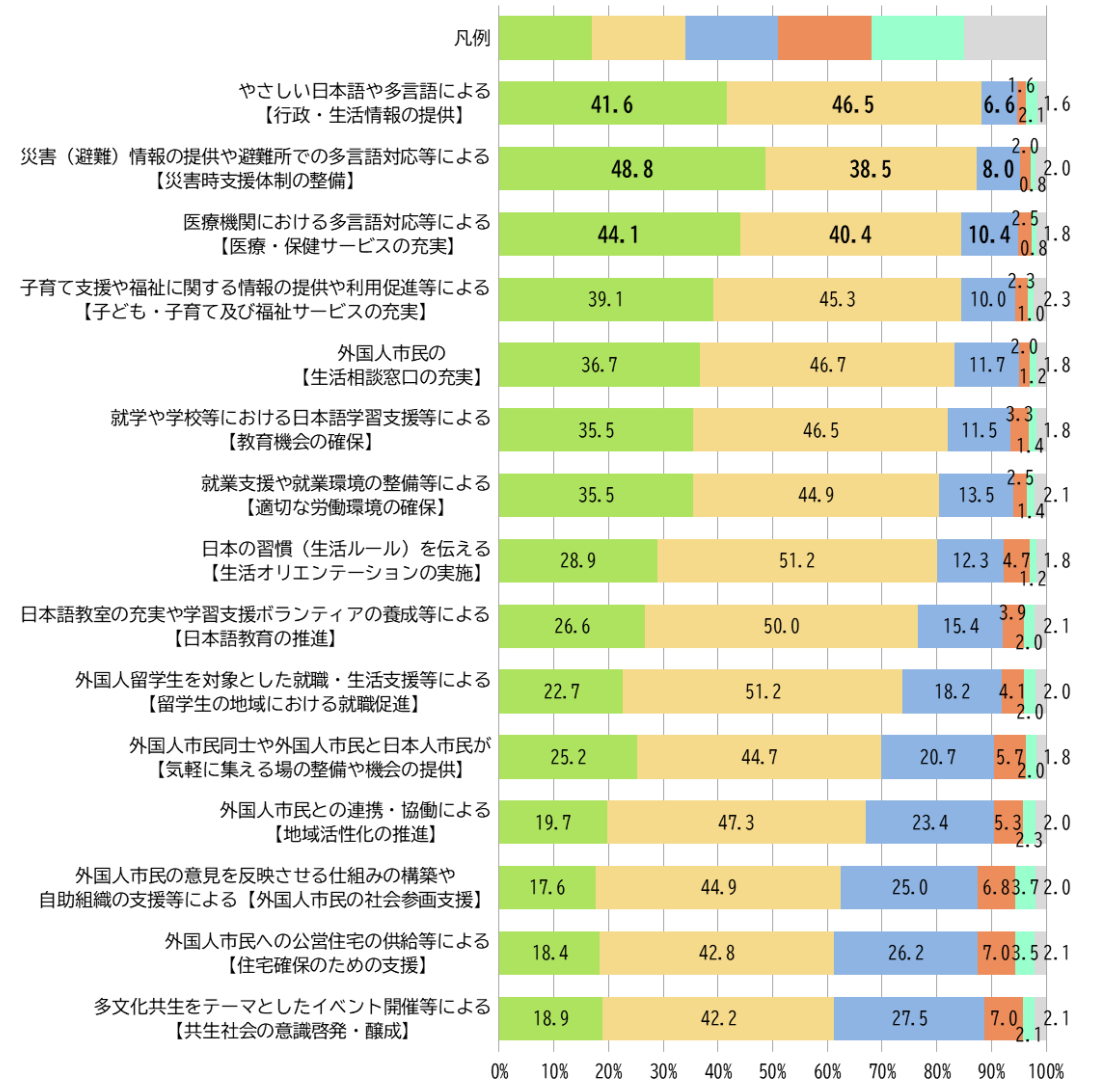
- 多文化共生社会を実現するために福山市がすべきだと思う項目（「とてもそう思う」＋「そう思う」）は、「行政・生活情報の提供」が88.1%で最も高く、次いで「災害時支援体制の整備」が87.3%、「医療・保健サービスの充実」が84.5%となっています。

自由記述による回答（抜粋）

- 外国人労働者の方々が安心して暮らせるような環境を作ってほしい（10歳代）
- 日本語表記のみの場所も多くあるように感じるので、多言語化する必要があると感じる（20歳代）
- やさしい日本語を広めてほしい（30歳代）
- 相談窓口の拡充と周知、相談のしやすさを期待する（40歳代）
- 孤独にならない様な集いの場を作ることが必要だと思う（50歳代）
- 国際交流関係の行事に補助金支援が必要である。また、公園や公的な施設の使用料免除などの支援があればよい（60歳代）
- 地域住民として受け入れ、福山市民と同等の支援（70歳代）

回答者数：512件

福山市がすべきだと思う



(4) 備後圏域の暮らしに関する住民アンケート

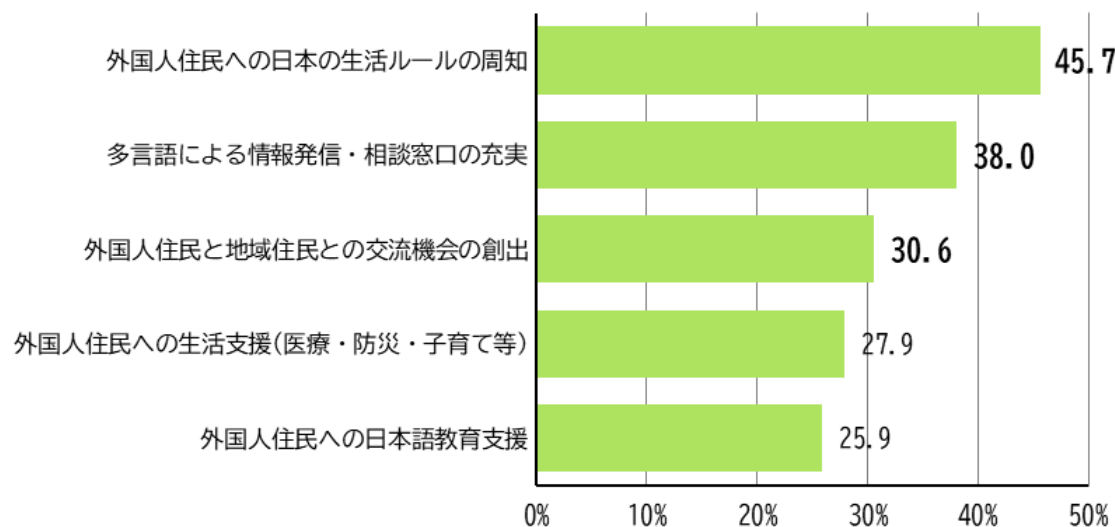
- 期間 2024年（令和6年）6月13日～7月8日
- 対象者 備後圏域7市2町に住民登録されている18歳以上の住民（無作為抽出）5,000人
- 回答方法 インターネット（Web回答）及び郵送
- 実施主体 福山市
- 回答状況等 1,493人（三原市137人、尾道市135人、福山市526人、府中市124人、竹原市112人、世羅町120人、神石高原町111人、笠岡市121人、井原市107人）
- 調査項目 「多文化共生のまちづくりの推進」について

【「多文化共生のまちづくりの推進」について】

備後圏域市町の連携による取組について、特に力を入れるべきだと思うものを、教えてください。
(個々の市町だけで取り組むべきことではなく、連携して取り組むべきことを教えてください。)

- 「外国人住民への日本の生活ルールの周知」が45.7%で最も多く、次いで「多言語による情報発信・相談窓口の充実」が38.0%、「外国人住民と地域住民との交流機会の創出」が30.6%となっています。
- 年代別にみると、「30歳代」「40歳代」で「外国人住民への日本の生活ルールの周知」の割合が高くなっています。

回答者数：1,493件



属性		多言語による 情報発信・相談 窓口の充実	外国人住民への 日本語教育支援	外国人住民への 生活支援(医療・ 防災・子育て等)	外国人住民への 日本の生活 ルールの周知	外国人住民と 地域住民との 交流機会の創出	
全体		(n=1,493)	38.0	25.9	27.9	45.7	30.6
住所	三 原 市	(n=137)	38.0	25.5	31.4	45.3	26.3
	尾 道 市	(n=135)	38.5	25.2	24.4	51.1	31.1
	福 山 市	(n=526)	39.0	27.2	27.4	48.3	27.4
	府 中 市	(n=124)	33.1	29.0	30.6	50.0	30.6
	竹 原 市	(n=112)	47.3	23.2	25.0	41.1	30.4
	世 羅 町	(n=120)	37.5	24.2	30.0	40.8	33.3
	神石高原町	(n=111)	40.5	26.1	31.5	28.8	40.5
	笠 岡 市	(n=121)	33.1	19.0	28.9	52.9	34.7
	井 原 市	(n=107)	31.8	29.0	23.4	41.1	33.6
年代	18～19歳	(n=16)	50.0	25.0	6.3	37.5	31.3
	20～29歳	(n=101)	51.5	38.6	18.8	41.6	20.8
	30～39歳	(n=135)	42.2	22.2	20.7	51.9	30.4
	40～49歳	(n=218)	36.7	24.8	26.1	53.7	27.5
	50～59歳	(n=234)	45.7	23.5	32.1	48.7	22.2
	60～69歳	(n=302)	35.1	23.8	31.8	43.0	33.1
	70～79歳	(n=320)	30.3	25.9	28.4	43.1	39.7
	80歳以上	(n=164)	36.0	29.9	29.3	39.0	31.1

福山市多文化共生推進プラン

発 行：福山市

編 集：福山市市民局まちづくり推進部多様性社会推進課

〒720-8501 広島県福山市東桜町3番5号

電話番号 084-928-1002 FAX 084-928-1229